

# 生活環境常任委員会要点記録

日 時： 令和5年9月14日（木）  
午前10時01分～午後3時19分  
場 所： 第2委員会室

出席委員 （6人）	委員長	渡 辺 しんじ	副委員長	岸 田 めぐみ
	委員	おにつかこずえ	委員	橋 本 由美子
	委員	しらた 満	委員	石 山 ひろあき

出席説明員	市民自治推進担当部長	田 島 元	くらしと文化部長	古 谷 真 美
	市民自治推進担当課長事務取扱 （兼）コミュニティ・生活課長事務取扱			
	都市整備部長	佐 藤 稔	都市計画課長	松 本 一 宏
	ニュータウン再生担当課長	内 田 直 人	道路交通課長	檜 島 幹 夫
	環境部長（兼）	小 柳 一 成	環境政策課長	佐 藤 彰 洋
	特命事項担当部長			
	地球温暖化対策担当課長	市ノ瀬 聡	公園緑地課長	長谷川 哲 哉
	資源循環推進課長 （兼）資源化センター長	星 野 正 春		

## 案 件

件 名		審 査 結 果
1	第 7 5 号議案 市道路線の認定について	原案可決すべきもの
2	第 7 6 号議案 市道路線の廃止について	原案可決すべきもの
3	5 陳情第 6 号 都営多摩ニュータウン諏訪団地（4 丁目）の建替移転に対する東京 都への要望に関する陳情	趣旨採択すべきもの
4	行政視察について	了 承
5	特定事件継続調査の申し出について	了 承

## 協 議 会

件 名		担 当 課 名
1	ゆう桜ヶ丘大規模改修にあたっての実施方針	コミュニティ・生活課
2	多摩センターわくわくプロジェクト進捗状況報告	経済観光課 都市計画課 道路交通課 公園緑地課
3	多摩市都市計画に関する基本的な方針（都市計画マスタープラン） の改定に係る進捗状況について	都市計画課
4	多摩ニュータウン再生の進捗状況について	ニュータウン再生担当
5	多摩市道 6－1 0 号歩線（鶴牧東公園沿い遊歩道）街路樹環境更新 素案について	道路交通課
6	多摩市気候市民会議の結果について （脱炭素に向けた市民からの提案）	環境政策課
7	次期「多摩しみどりと環境基本計画」策定の今後のスケジュール について（令和 5 年度 9 月～3 月）	環境政策課
8	令和 4 年度分 多摩市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量算定 報告	地球温暖化対策担当
9	第 4 回脱炭素先行地域への申請について	地球温暖化対策担当
10	パークマネジメント計画 ・ 公園施設長寿命化計画の骨子案につい て（報告）	公園緑地課
11	多摩市事業系有料指定袋の共通化について	資源循環推進課
12	所管事務調査について	—

午前１０時０１分 開会

渡辺委員長 ただいまの出席委員は６名である。定足数に達しているので、これより生活環境常任委員会を開会する。

本日配付された委員会及び協議会の資料は行政資料室に所蔵している。

それでは、これより審査に入る。本日の審査は、お手元に配付した審査案件の順序に沿って進めさせていただく。

まず日程第１、第７５号議案 市道路線の認定について及び日程第２、第７６号議案 市道路線の廃止についてに関して現地視察をし、それから審査に入りたいと思うが、いかがか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長 ご異議なしと認める。では、そのようにさせていただく。

この際暫時休憩する。

午前１０時０１分 休憩

---

午前１１時０３分 再開

渡辺委員長 休憩前に引き続き会議を開く。

この際日程第１、第７５号議案 市道路線の認定について及び日程第２、第７６号議案 市道路線の廃止についての２案を一括議題とする。

これより市側の説明を求める。

佐藤都市整備部長 それでは第７５号議案 市道路線の認定についてご説明する。本議案は、開発行為により移管を受けた整備済み道路を市道路線として認定するものである。認定路線の概算数量は、幅員５．０メートル、延長１０２．７５メートルとなっている。これらの市道路線の認定により、市道の路線総数は１，６６７路線、総延長は約３０２．６キロメートルとなる。

続いて第７６号議案 市道路線の廃止についてご説明する。本議案は、機能を有しない市道路線の用途廃止に先立ち、市道路線を廃止するものである。廃止路線の概算数量は幅員０．９２メートルから０．９５メートル、延長４５．４９メートルとなっている。これらの市道路線の廃止により、市道路線の総数は１，６６６路線、総延長は約３０２．５キロメートルとなる。よろしくご審査の上、ご承認を賜るようお願い申し上げます。

渡辺委員長        これをもって説明を終わる。

                      これより質疑に入る。質疑はあるか。

橋本委員            第76号議案で機能を有しないという表現方法があったが、この辺のいわゆる赤道のことについてもう少しどういふものなのかをご説明いただきたいと思う。

檜島道路交通課長   機能を有しないというところであるが、まず本路線については、北側に和田原通り、南側に開発部分があることから本路線の奥へ入る場合に代替の路線ができているというところ、それから、もともとが農地の活用のための道路であったと思われるため専ら隣接する方が利用されていたというところが見受けられることと、インフラ関係が整備されていないといったところを判断して総括的に廃止が妥当であると捉えているところである。

橋本委員            今回の視察でも45.49メートルの全部ではなく付け替えをする部分というご説明があった。結果として第75号で本数が1つふえたが第76号で市道の本数は減るという説明があったが、この1,666路線の中に同じようないわゆる機能を有しないが整備されないところというのはどのくらいあると考えたらよろしいのか。

檜島道路交通課長   今その資料を持ち合わせていないが、既存地区においてはこういった赤道の水路が数十本はあるかと認識している。

橋本委員            いろいろ開発の意思が出たりしたときに赤道は大分整理されていくと思うが、これからのその辺の予定というか、どのような形できちんとした整理に進んでいくのか、その見通しがあればお答え願う。

檜島道路交通課長   今回のように土地利用が図られる機会を捉えて、地権者様にご協力をいただきたいというお話をしていこうかと思っている。あと地籍調査は、先ほどご説明したように登記がまだ完了していないが、それも徐々に進んできているので、そういった確定してきたエリアについては所管でも押さえており、開発行為等の届け出、宅地開発といったことでの相談等があれば、そういった機会を逃さないようにして整理できるように取り組んでいきたいと思っている。

しらか委員          第75号議案のほうである。ここの現地に行くまでも大変狭い道だったが、もちろん市道にさせていただいてUターンするところもつくられてい

るが、ここを通る消防車の関係については実際どのように検証していったのか。

檜島道路交通課長 宮下通りの突き当たりのところからクランク状になっているような道路が続いているが、現状で5メートルから6メートル程度は取れているので、あと開発道路区域内も5メートル取れているところであれば消防車の大型でも通れるというところである。

しらた委員 一応私も大型免許を持っているが、クランクの角度を見る限り結構ぎりぎりできついなというところもあるので、それはプロの消防署の方であるからどういうサイズのものが通れるかということはもちろん検証すると思うが、市道路線に変わることによって今度多摩市の責任になるので、その辺もしっかり検証していただきたいと思う。

それと第76号議案であるが、先ほど橋本委員から使っていないところについての質問があったが、課長の答弁だと地籍調査を行っているが登記がなかなか進んでいないということである。地籍調査だけではなく登記まですることが大切かと思う。所管が違うと思うが、横の連携で地籍調査が終わったので登記も急いでやるように、そのことがまた税収にも関わってくるかと思うので、その辺よろしく願います。

渡辺委員長 ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。これをもって質疑を終了する。

これより第75号議案に対する討論に入る。意見・討論はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 意見・討論なしと認める。これをもって討論を終了する。

これより第75号議案 市道路線の認定についてを挙手により採決する。  
本案は可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求める。

(賛成者挙手)

渡辺委員長 挙手全員である。よって本案は可決すべきものと決した。

これより第76号議案に対する討論に入る。意見・討論はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 意見・討論なしと認める。これをもって討論を終了する。

これより第76号議案 市道路線の廃止についてを挙手により採決する。  
本案は可決すべきものとするに賛成の諸君の挙手を求める。

(賛成者挙手)

渡辺委員長 挙手全員である。よって本案は可決すべきものと決した。

日程第3、5陳情第6号 都営多摩ニュータウン諏訪団地(4丁目)の建  
替移転に対する東京都への要望に関する陳情を議題とする。

本件については陳情者から発言の申し出がある。多摩市議会基本条例第  
6条第3項の規定により、これを許可することにご異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 異議なしと認める。よって発言を許可することに決した。

発言される方に申し上げる。議会で定める要領により、発言は5分以内と  
なっている。なお、1分前になったらその旨をお知らせするので、時間内で  
発言をお願いする。また、本日の発言は要点記録に記載される。簡潔、明瞭  
に、陳情書に沿って発言してほしい。

それでは、氏名を言われてからご発言願う。

陳情者(伊東伸浩氏) 諏訪4丁目自治会の会長をしている伊東伸浩と申す。

まずは、委員の皆さん、市役所の職員の皆さん、いつも市民のために、私  
たちのために、多摩市のために、本当にありがとうございます。ご苦労さまである。と  
ても感謝している。これからもエネルギーで、優しい明るい多摩市ため  
に一緒に歩んでいけたらと思っている。

陳情書を渡しているの、内容を読んでいただければある程度わかって  
いただけるかと思っている。一応順に補足させていただきたいと思ってい  
る。

1番であるが、こちらに関しては、新しく入居される方が今もおられる。  
それで、これは自治会からも東京都に申し入れてできるだけ空室を埋めて  
ほしい、建て替えを控えていて大変な時期ではあるが、できるだけ埋めてほ  
しいということをお願いしているので、現在も入ってきている状態である。  
ところが、その入ってくる方に対して、近々引っ越しがある、移転があると  
いうお話が全然なされていないという事実がわかった。最近越されたどの  
方に聞いてもその説明を一切受けていないということだったので、もちろ

ん東京都にもこの話をしてあるが、新しく諏訪4丁目に入居される方に必ず、当選した段階がよろしいかと思うが、また移転建て替えの最中であるということをしちゃんと説明してあげてほしいということで、生活設計が狂ってしまうというような発言も住民の方からあったので重く受け止めている。

2番は工事の進捗状況であるが、見ている感じでいくと、4丁目1番地の線路側に最初に建つであろう2棟に関して、住民から1棟が少し遅れているような状況に見えるというお話があり、これは適宜であるが、工事の進捗状況を私たちにも教えていただきたいという意味でここに書いてある。

3番目は、今の4の2番地もしくは3番地から最初に1番地にできる2棟に越す対象の世帯はどこなのかをできるだけ早期に発表していただきたいということである。これも東京都に直接お話をしているが、まだはっきり決まっていない、はっきり決まっていないの連続で、私たちが困っている。高齢化がとて進んでいて引っ越しにかかる負担がとて大きくなっているので、早期に発表していただいて、片づけや引っ越し準備に関して早く着手していただきたいと住民に対してアピールをしたいので早めに教えてほしいということである。

移転説明会の早期開催というのは、これもかぶってくる問題ではあるが、通常東京都でも内部では半年前という状況になっているようであるが、いかんせん今の状況を見るといろいろ負担が大きいので、できるだけ早い時点、わかった時点で説明をお願いしたいということで、こちらを書かせていただいた。

そして、どれも大事であるが一番大事なのが5番目で、都営住宅の建て替えは東京都の事業ではあるわけであるが、こちらの多摩市にお住まいの方はみんな多摩市に住民登録していろいろなサービスを受けたりするわけであるが、特殊性が高いというか都営住宅の場合住民のいろいろな事情があるので、負担をかけることも多いかと思う。多摩市としても、都の事業ではあるが積極的にまちづくりの一環として都営住宅に関与していただいて、一緒に考えていったらどうかと思い、これを書かせていただいた。自治会で共益費を集めてそれを運用しているという都営住宅の特殊性がある。一般だったら不動産屋で家賃と一緒に徴収して管理するようなものを、都営住

宅では住民が管理して、住民が集めてそれを運用しているような実態もあり、それがとても負担になっている。もちろん、法律に守られてというか皆さんのお世話になりながら暮らしているので、私たちが何もしたくないということではなく前向きにいろいろしたいが、現状なかなか難しい状態があるので、そういったことも含めて将来的なことも含めて皆で話していければということで会議体の設置をお願いしたいと思う。

渡辺委員長        以上で市民発言を終わる。

      本件の陳情内容について現在の市の状況や考え方など、市側から説明等あればお願いする。

内田ニュータウン再生担当課長    本日、案件3ということで資料を2つおつけしている。

      まず諏訪4丁目の都営多摩ニュータウン諏訪団地にお住まいの方へ、建て替え移転に関して、直近でお知らせしている内容について、2つ目の参考資料をご覧ください。こちらは、先ほどの陳情者からも出ていたが、令和4年7月に東京都住宅政策本部が4丁目の居住者すべてに配付したものである。2ページ目に図面がついているので、そちらを見ながらお聞き取り願う。

      現在、オレンジ色の部分で2期の建て替え工事が進んでいる。今後の予定としては、図の緑色のところで3期4期工事について基本設計、実施設計などを行い、令和7年度の着工を予定している。着工に先立って、図の緑色と水色の範囲の住棟を解体する。今後の予定としては、緑色と水色での建て替え範囲の住棟にお住まいの方は、オレンジ色の2期工事完了後の住棟に移転していただく予定で、移転の説明については改めてご案内し、引っ越しも約半年前の令和7年度頃を予定しているというお知らせである。

      これを踏まえて、1つ目のファイルの資料をご覧くださいと思う。このことを踏まえて、1つ目のファイルで陳情に対する東京都の見解をまとめているのでご説明する。陳情項目(1)、現在の諏訪団地へ近年入居された方及びこれから新しく入居される方に対する建て替え移転についての案内と丁寧な説明。こちらの状況として、多摩ニュータウン諏訪団地は全体の建て替えが完了するまでに長期間を要するため、住宅ストックの有効活用の観点から建て替え着手前の住棟の空き住居の入居者募集を継続している。このため、募集継続中の住棟に入居されている方の中には将来的に建て替



えが実施されることを知らずに入居される方がいる可能性がある。諏訪団地第2期工事の進捗に伴い、諏訪団地4丁目の残り全ての住棟の建て替え事業に着手することになったことに併せて、令和4年7月に全ての住戸にお知らせを配布するなど、周知を図っている。都の対応としては、今後諏訪団地へ近年入居された方へは、諏訪4丁目自治会を通じて丁寧に説明をしていく。また、諏訪団地の公募に対して当選し審査に合格した方々へは、都の通知を配布することによりご案内と説明をしていく。

次に、(2)の工事の進捗状況については、状況としては令和4年7月にお知らせを配布するなど周知を図っている。都の対応として、諏訪4丁目自治会を通じて工事の進捗に合わせて丁寧に状況を説明していく。

次に、(3)2の1期移転世帯の早期発表については、状況としては令和4年7月にお知らせを配布するなど周知を図っている。都の対応としては、移転開始の6か月前に住居者向け移転説明会の開催を予定している。工事の進捗に合わせて諏訪4丁目自治会は事前にご案内を申し上げる。

次に、(4)移転説明会の早期開催については、先ほどの(3)と同様の内容になる。

最後に、(5)東京都、多摩市、J K K、団地居住者及び有識者等による移転後の自治会運営や都営住宅の管理方法に関する会議体の設置について、現状として東京都では、都営住宅等で生活するに当たり、共同使用部分の管理及び入居者の共同の福祉等を実現するために自治会等が必要であると考えている。自治会等は、入居者相互の親睦、良好な環境づくり、防火・防災活動など、皆さんが快適に過ごすために重要な役割を果たしている。

これまでも都では円滑な自治会運営をするため、指定管理者である東京都住宅供給公社を通じて共益費徴収事業の実施による維持管理の支援や各窓口センターでの相談対応のほか、巡回管理人による現地での相談対応、自治会専用ダイヤルの設置、自治会向け無料法律相談会の実施など、運営に関する支援を行ってきた。都の対応としては、引き続き自治会運営が円滑に進むようこうした取り組みを行っていくのでご活用いただきたいというものである。

以上が市からの説明である。

渡辺委員長        これをもって説明を終わる。

                      これより質疑に入る。質疑はあるか。

橋本委員        入居時の説明ということであったが、それに関連して例えば2の1というところ、先に動く人たちなどは何年使うかわからないのに、あそこはお風呂の浴槽を入居者の責任で買わないと風呂なし世帯になってしまうと思うが、この辺のところは去年当たった人にも悩ましい。わずか数年しか使わないものに10数万円、性能のいいものはもっとする。この辺のところはどんな解決方法があるのか、解決しないでもうそれは決まりだからということを進めているのか、そこをお聞きしたいと思う。

内田ニュータウン再生担当課長    大変申しわけないが、そこまで細かいところの把握は市ではしていないということでご回答をさせていただく。

橋本委員        結構金の絡むことである。それで、東京都の先ほどの答弁だときちんと入居者にはということで、決まってうれしいが、これ、かなりの大きな負担にもなるし、もしかして私わからないのでこれは言いつ放しになってしまうが、生活保護の人だったら風呂まで用意してくれるのかと思っているが、そうでない人にとっては本当にこのことは深刻で、私も相談を受けたが、どうしようか、風呂なしだとできるとしたら諏訪の福祉館に行ける人はよいが、働いている家族は行けない。そうしたら、駅前に風呂もあるのではないかというようなことをちらっと言われて、その方が非常に怒って去年連絡いただいたが、こういうところはJ K Kや東京都だけのことではなく多摩市民になる方のことであるのでぜひつかんでおいていただいて、多分簡単な解決方法はないと思う。水が来てもシャワー一つもできないので、夏だったら水風呂という感じになってしまうので、ここは非常に重要なことかと思う。そういう細かいところを多摩市もぜひつかんでいただきたいということである。それから、続けて言うが、前回4-1の街区の人が既に永山3丁目の3-12-1と5-12-1に入居されているが、この方たちの経験を見ても、6カ月を待てないで、自分の1年後はどうなるのだろうという形で家具やごみ等いろいろ、これが多分陳情項目の1から4まで本当に切実な思いとして出されていると思う。説明する側の東京都は紋切り型で6カ月と言うが、そういう声が多摩市に寄せられたら、多摩市は6カ月だ

ったら6カ月前にやるからとそれだけしかお答えになっていないのか、または東京都に対してそれ以前でもというような働き方をされているのか、その辺をお聞きしたいと思う。

内田ニュータウン再生担当課長 お風呂の件は把握していなくて申しわけない。そういったところからすると、事前になるべく早めに周知していくところが大事かと思っている。文面上では「6か月」と書かれているが、自治会を通じて丁寧に、1年に1回でも構わないと思うので、少し丁寧に説明できるようなことができないか、東京都とコミュニケーションを図っていきたいと思っている。

橋本委員 引っ越しがあるといっても100%の方が引っ越されるわけではなく、これを機にご家族と同居したり、施設に入ったり、あつてはいけないことであるが登録している方以外の方が住んでいたりといろいろな問題があり、それで実際に引っ越しに行くと思うが、前回の5丁目3丁目のときにはどのくらいの方が実際に新しい都営住宅に移り、どのくらいの方が他市に転出されているかを市としてはつかんでおられるのか。

内田ニュータウン再生担当課長 そちらも手元になくてお答えを申し上げられないが、基本的には今4丁目にお住まいの方を優先的に引っ越しということであつせんすると聞いている。言われるとおり、いろいろなご事情があつて転出される方もおられると思っている。数字は把握していないところである。

橋本委員 6か月前だと、例えばお父さんお母さんを引き受けて子どもさんが家を少し大きめにするにしても、6か月では絶対に間に合わない。そういう意味でも、自分で何か決められることではないので、借りている家とはいっても6か月というのは何とかしなければいけない問題だということを申し上げたい。

最後に自治会ということであるが、今回自治会の責任者をされている方がこのような陳情を取りまとめたが、自治会頼みというのはいずれ限界が来るのではないかと思っている。都営住宅に50年前に初期入居された方はもっと若かったかもしれないが、今の4-2街区、4-3街区、今度は直接出ていないが5丁目にいる方の高齢化率を考えても、自治会とパートナーとしてというのでは、家主である東京都がもっと積極的に責任を果たす

ようになっていかないと問題が解決しないことになっていくのではないかと私は危惧しているが、その辺に対して、東京都の答弁ではないが多摩市としてはどう考えているのかお答え願う。

内田ニュータウン再生担当課長 橋本委員の言われるとおり、建て替えの進行とともに大家でありかつ同じ行政でもある東京都、それと自治会で関係性を築きながら話し合いをしていくことが重要だと考えている。その上で、市としても自治会運営の部分に対して必要かつ可能な支援はしていかなければいけないと考えている。

岸田委員 確認になるが、今回引っ越しされるということで東京都がそういう住居の確保や管理に携わっていくが、引っ越しとなるとごみの出し方や各種手続といった市が関わることで悩まれることもあるかと思う。その辺はこれまでしてきたように支援を続けていくと考えてよろしいのか伺います。

内田ニュータウン再生担当課長 諏訪4丁目の過去の旧西永山小学校や中諏訪小学校の移転があったと思うが、居住者の方で準備会を立ち上げていただいております、今回それを立ち上げるかどうかというのはあるが、その際に当然住居変更もあるのでそういったご案内や、引っ越しする際にはかなりごみが出ると思うのでそういったごみ出しのルールをどうするかについて、前回は出前の説明会をして支援したというところがある。また、社会福祉協議会や地域包括支援センターの職員にその準備会に出席していただいておりますので、今回のケースについても必要な支援は少し考えていきたいと思っています。

岸田委員 陳情者は住民の特殊性と表現されたが、東京都に言っても、本当は暮らしに関わることで情報をつかんでおく必要があるのに、その情報が得られないことによって不安を感じておられる方が多数いるということもよくわかったが、先ほど内田課長から説明あったとおり、本当であればその大家さんである東京都と自治会でやり取りをしながらそういった部分を解決されていくのが本来の道筋というか妥当であるが、東京都がなかなかこういった住民の状況に寄り添ってくれなかったというのがわかってきたが、これは今多摩市の中でこの4丁目だけが移転をするのではなく、過去に移転があったり、もう既にしていると思うが、そのことで多摩市の市民の方から東

京都に対して悩みというか困り事、同じようにこのように感じておられる声を市は聞いてこられたのかと、先ほど自治会の運営についても、橋本委員より持続可能な運営方法とは考えられないというようなご発言があったが、そういった自治会の運営や管理の方法も、都営だったり市営だったりするとスタンダードなことかもしれないが、広く一般的に見ると管理会社がやってくれるという中では、何かそういったお声をいただいているのかについて伺いたいと思う。

内田ニュータウン再生担当課長 過去の引っ越しというところであるが、詳細のところはつかんでいないが、やはり同じような悩みがあったと思っている。そういったところは東京都にしっかりとつないでいるところであるので、東京都と話す機会はいつでもあるので、そのチャンネルを使って引き続き話をしていきたいと思っている。

しらた委員 先ほどから自治会が少しテーマになっているところもあるかと思う。陳情項目の１、２、３、陳情者の思っていることはそのとおりだと思う。自治会に対して多摩市としてはどのような方向性で、高齢化率が大変高くなっている自治会をどのようにしたら維持管理というか維持できるようなサポートができるのか、どのように今お考えなのだろうか。

古谷くらしと文化部長 自治会の高齢化というのは、今、陳情された方から寄せられたこの諏訪４丁目自治会に関わらず、全市的に高齢化している、なかなか若い人が入ってこない、自治会の組織率も低くなっているというのは全市的な課題であり、これは多摩市だけではなく全国的な課題と捉えている。市としては、その中でも自治会がそれぞれの地域の中の課題を抱え込まないように、ほかの自治会と課題を共有して解決策を話し合えるような場として自治会連合会といった会議体の事務局を務めさせていただき、そうした問題解決の場、研修の場として開かせていただいているところである。それが直接高齢化の課題に結びつくかどうかというと、そこはやはり難しい、今後も考えていかななくてはいけない課題だと捉えている。

しらた委員 課題は捉えている、では、課題解決はどのようにしていくのか具体的な考えがあるのか。全国的に日本中全部高齢化というのはもちろんそうであるが、私たち多摩市であるから、多摩市の特に諏訪・永山、高齢化率が大変

高くなっていることが明らかになっているところで、では、自治会に多摩市としてどのようなサポートをしていくのか、継続できるのか。私は既存地区であるが、自治会の加入者が減っていくというかおやめになる方がいる。そういうことを考えると、ああいう集合住宅のところでどのように自治会の人たちを多摩市がサポートできるのか、具体的に何かあればお願いします。

古谷くらしと文化部長　例えば自治会になかなか若い方々が入ってこれない課題としては、働いているとなかなか時間が取れない、今までのやり方だと我々としては担い切れない、あるいは業務の負担が重い、自治会に求められる負担が重いというような課題があり、自治会の組織率や加入率、若い人がなかなか入ってこないようになっていくのかと思っている。そうした課題については、自治連合会などでも、自治会を運営するに当たっての負担を軽くするためにはどうしたらいいのか、例えば、オンラインを活用してその場に行かなくても参加できるような手法についても研究・検討する場を設けさせていただいているところである。引き続きそういう負担をあまり重く感じずに自治会に携わることができる手法を自治会の皆様とともに考え、提案していきたいと考えている。

しらか委員　今お聞きすると、多摩市が高齢化している自治会に対しては負担をかけないようにということが今一番メインであり、そうするとそれに対しては、IT化やオンラインでそういうことを少しでもクリアできるようにという考え方なのだとお聞きしてわかったが、実際それだけではないのではないのか。高齢の人はごみ出しも大変であるし、買物に行って上に上がるのも大変であるし、いろいろなことがあり、若者の人たちに住んでもらうといっても、多摩市があっせんするわけではない。どういう方が住むのか私は全然わからないが、東京都はどういう方に住んでいただけるようにするのか。若い人だったら、申しわけないけれどもっと交通の便がいいところを考えて、今の方々は各自治体に対して、サービスや税金面、いろいろなことを考えて住む方もおられると思う。今住んでいる方々をどうするかということは、本当に多摩市として、自治連合会があるのでそういうところと共有しと言っているが、地域によって高齢化率も違うし、住んでいる人たちのコミュニケーションの仕方も違うと思うので、多摩市としてその辺は地域ごとにしっか

り把握して、この陳情者の思いをもう少し酌み取っていただける方法があるかと思うがいかがか。

古谷くらしと文化部長 今の論点としては、2つあるのかと捉えさせていただいた。都営住宅というところも、住民層に少し偏りがあるのではないかというご指摘か。そこについて私どもで答えるのは少し難しいが、高齢化している地域の課題を地域の人たちで、住民自治と言うが、やはり高齢化が高い地域では課題がある、そこをどのように市行政が支援できるのか、自治連合会のことも言われたがというお話があったが、自治会という町ごとの単位、住区ごとの単位ではなく、もう少し広く捉えてエリアごとに捉えれば、今まさに市で行っている（仮称）地域協創のところである。そうした取り組みの中で地域の中で緩やかにつながっていく、興味関心のある分野でこういうことだったら我々は地域の中で活動できるという仕組みを今まさに市の中で検討しているところであり、そうしたところを組み合わせながら自治会の支援もできたらよいのではないかと捉えている。

田島コミュニティ・生活課長 今、くらしと文化部長からもあったが、しらた委員ご指摘のとおり、高齢化の進行で地域の中に様々な課題が生じているところである。特に自治会も含めて既存の組織運営が、なかなかこれまでどおり運用できていないような、青少年問題協議会やコミュニティセンターの運営協議会についても同じく高齢化が進んでいるし、そういった様々な分野で今までのやり方はどうしても見直していかなければいけないと考えているところであるので、今、市民自治で検討させていただいているが、「地域協創」という言い方をしているが、こういった地域の活動に、自治会活動も含めてであるが様々な世代の人に関わっていただきたい。それがなるべく負担感のないような、どうしても負担感があると継続していかないということがわかってきたので、なるべく広い世代の人に一定の役割を担っていただく。そういったものを広げていくというところがこれからの多摩市、今後10年間ぐらいはさらに高齢化が進行していくことが予測できているので、そういった仕組みを今入れていかないとなかなか次の多摩市があまり明るいものにならないのではないかと考えているので、先ほどあったように、総務常任委員会でご説明させていただいたが、幾つか仕組みや仕掛けを入れてい

きたいと思っている。これは、住民の皆さん、市民の皆さんだけの努力では今立ち行かなくなっているのです、市として、行政としてこういった若い世代や次の子育て中や現役の仕事をしている方でも地域の活動になるべく関わられるような仕組み・仕掛けを入れていくことで、すぐに特効薬的に課題解決にはつながらないかと思うが、何年か先を見越して新たな仕組みを入れていくということは、しめた委員が言われるように市として必要なことだと思っているし、取り組みを始めているところである。

石山委員           1点確認だが、先ほど橋本委員の最後の質問のところで市から説明があったと思うが、(5)について市の見解をお聞きしたいが、先ほどの橋本委員に対してのお答えを市の見解として考えていいのかどうかだけ確認させてもらえればと思う。

内田ニュータウン再生担当課長   先ほども申し上げたとおり今の段階で市が会議体を設置することは考えていないが、大家さんと自治会の関係をしっかり築き上げていく、お話し合いを進めていくというのが大事かと思っている。

橋本委員           5番のことだが、陳情者は普通に見える範疇で横並びで東京都、多摩市、先ほど答弁で東京都と多摩市は行政だから連絡が取り合えるような趣旨のことを言われたが、J K Kは指定管理者であり、それから有識者となると、また行政でやるとしたらその会議体の設置はハードルが高く、何のために、誰で、どの金を使ってやるのか非常にややこしい。だから、これは難しい部分もあるかと思うが、東京都に将来的にはこういうことをして本当に今後の何百戸単位の都営の住宅を管理する自治会とそういう関係を話し合う場を持つ気はあるのかなのか、その点について伺いたいと思う。

内田ニュータウン再生担当課長   東京都も多摩市だけではなく全体的な事業であるのでなかなかそこまでは難しいというところがあるのかもしれないが、今ちょうど建て替えという時期で自治会と話し合う機会も多くなっていると思うので、まず市からそういったところをしっかりと東京都にお伝えさせていただきたいと考えている。

橋本委員           これは私がこの諏訪の関係しか見えていないところもあるが、例えば永山に移るときには準備会の中心に高齢者のことについて関わっている人がいて非常に専門的な知識があり、そこにごみ対策課やいろいろなところが



協力することによってかなり問題が解決したと思う。5丁目は5丁目で結構まだいろいろやる気のある人たちがいて自治会をつくっている。4丁目は戸数がすごい。今減ったが最高1,000世帯くらいあるところを一つの自治会でまとめるわけであるから、よほど時間を割いてやる人がいない限り簡単にはいかない。

先ほどからずっと出ているが、管理組合だとお金を払って、例えばJ K Kさんにもっと個人が1件何百円かを毎月払うことによってお願いすればできることもあると思うが、いろいろな層の人、お金が潤沢な人、いろいろな考えの人がいるが、都営住宅は結構幅があり、しかも市の生活保護のところが担当しておられる方も多い。こういう人に管理をお願いしてお金を払うという発想はできても、実際に絶対にそれが全戸の共通認識になるのはすごく難しいと思うので、東京都は引き続き自治会運営が円滑に進むようにということであるが、予算もあることで、すぐにはこれだけの人間が集まるのは難しい部分があると思うが、やはり解決方法を市から本当に東京都に大家さんとしての責任を全都に都営住宅があるわけだから果たしてもらわないと、どこかで重大な問題、小さく言えば日々孤独死をする人もいるし、いつの間にかいなくなってしまう人、動物の処理のことで飼ってはいけませんが飼うと、もし入居したときにはそのにおいや対策、もう既にすごく大変なことがたくさん起きているのではないかな。

そういうことを知っているのは市が一番身近で、東京都とひざ詰めで今後大きな課題として話し合っていないと、それだけ居住者数が愛宕にも新しい都営住宅が建ち、和田団地も東寺方団地もあるので大変な状況になっていると思う。腰を据えて大家さんである東京都と、ちょうどルート的には副市長もその部署から来た方でいろいろ詳しい方もいるわけであるから、ぜひ市として前向きにやっていただくという姿勢を持っていただきたいと、少し要求にもなってしまうと思うが、都市整備部長いかがか。

佐藤都市整備部長　ただいまの橋本委員のご指摘、本件は多摩市の諏訪団地の建て替えに起因するものであるが、それ以前の多摩市内のほかの団地でもそうであるし、また今後も起こってくる問題だと改めて感じたところである。また、大家さんである東京都から言えば、本件については多摩市のお話ではあるか

もしれないが全都的な問題で、先ほど来お話に出ているように特に高齢化が非常に顕著になっているところである。

私どもニュータウン再生まちづくりの中で都営住宅の建て替えという長年の課題について東京都にも一歩踏み込んで取り組んできていただいているところは、これまでもご説明させていただいたとおりである。そのような中で、実際にいよいよ建て替え引っ越しについてよそではなかなか顕在してこなかった課題がここで見えてきたというところについては、この先も都市整備部が中心になるかもしれないが、東京都都市整備局住宅政策本部といたった所管とのやり取りが私ども一番パイプになるところであるので、そういう課題の共通認識を図ることで何らかの対策、今までと同じ対策だけだとよろしくないのではないかとといった問題提起を含めて、私どもからも積極的に関与させていただければと考えている。

渡辺委員長      ほかに質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長      質疑なしと認める。これをもって質疑を終了する。  
この際暫時休憩する。

午前 11 時 57 分    休憩

---

午後 0 時 02 分    再開

渡辺委員長      休憩前に引き続き会議を開く。

これより討論に入る。意見・討論はあるか。

橋本委員      結論は趣旨採択としたいと思う。先ほどのやり取りの中で、他人事ではなく本当に何千人の人から、人生を任せているこの都営住宅をたくさん抱えた多摩市として積極的にやるべきことをやっていただきたいし、東京都では決まって「6カ月前には言うからよいではないか」と言うその一言が本当に住民にとっては不安で日々過ごせないという現実もあるので、もろもろのことがある中できちんとこういう意見を言う場ができたということでは陳情を出していただいた方にも感謝をしながら、趣旨採択としたいと思う。

しらた委員      5陳情第6号について趣旨採択として意見・討論をさせていただく。

陳情者の１、２、３、４については、本当これはごもっともで、橋本委員も言われていたが、６カ月前とかいう決まり事にはこだわらず、しっかりと前もって情報が入っていれば一日でも早く皆さんと一緒に共有していこうという市の対応もこれから大切かと思う。そうした中、５番のこれからの会議体を設置するということでは、有識者ということではなく、質疑の中でも都市整備部長の答弁が私は本当に、今までとは違った対策で積極的に関与ということで信頼をしながら進めていっていただきたいと思う。以上で趣旨採択の討論を終わる。

石山委員      会派自民党を代表し、趣旨採択とさせていただく。

先ほど市から説明があったように、陳情項目において東京都による周知、案内、説明が不足しているということが見受けられたが、今後、周知、案内、説明に丁寧に対応していくことが確認できた。（５）についてであるが、先ほど市の見解にもあったように、貸主、東京都、借主の関係性で解消していくことが重要であり、東京都の役割として期待されてしかるべきものであると考えている。よって現時点では、今後東京都の動向を注視していくものとして、会派自民党として趣旨採択の討論とする。

おにつか委員      あすたも・維新として趣旨採択とさせていただく。

１、２、３、４に関しては、本当にこのまま、これよりもっともっと市民の皆様に取り添った形で進めていっていただきたい。そして５については、まだまだ課題が大きいと思うが、ぜひ皆様に寄り添った形で会議が開かれることを本当に切に願って趣旨採択とさせていただく。

岸田委員      ５陳情第６号について意見を述べさせていただく。住まいというのは生きていく上で欠かせないものであり、人権だとも言われている。考えていく中で大切なのは、住まいということで住む場を確保していくことだけではなく、その人たちの暮らしについても考えていかなければいけないと思う。今回陳情者が言われた生活設計が狂ってしまったあるいはすごく不安に感じているというのは重く受け止めなければならないことだと感じている、一定東京都の見解について、市が出してくたれ資料でもわかったのであるが、今まで６カ月前ということで住民に取り添ってこなかったというのは、そこは丁寧に説明することで寄り添う必要があると考えている。先ほど申

したが、都営住宅のあり方や自治会運営等に関しての会議体の設置についても、居住者の方と、これからも東京都だったり、多摩市だったりというところで話し合うというのは必要だと考えるが、そのメンバーあるいはどういうくくりで話し合っていくかというのは考える余地があると考え、趣旨採択とする。

渡辺委員長      これをもって討論を終了する。

ただいまご意見を伺ったところ、趣旨採択すべきものという意見が5名である。趣旨採択すべきものという意見が全員であったので、よって本件は趣旨採択すべきものと決した。

ただいま趣旨採択すべきものと決したため、意見書提出について協議をしたいと思う。

この際暫時休憩する。

午後 0時08分 休憩

---

午後 0時08分 再開

渡辺委員長      休憩前に引き続き会議を開く。

それでは、今趣旨採択ということに決したので、これから今申し上げたように意見書提出について協議をしたいと思う。

この際暫時休憩する。

午後 0時08分 休憩

---

午後 0時08分 再開

渡辺委員長      休憩前に引き続き会議を開く。

ただいま確認した内容をもとに委員長が意見書（案）を作成し、委員の皆様にご確認いただいた後、事務局へ提出する。また、意見書（案）の最終確認は委員長一任とさせていただくことでよろしいか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長      それでは、そのようにさせていただきます。

この際暫時休憩する。

午後 0時11分 休憩

---

午後 1時10分 再開

渡辺委員長 休憩前に引き続き会議を開く。

日程第4、行政視察についてを議題とする。

本件について本委員会の所管事務事項に資するため委員長として先進市の視察を行いたいと思う。別紙の委員派遣承認要求書（案）のとおり、視察の内容については、日程は、10月17日から10月18日までの2日間、場所は、17日が長野県飯田市、18日が長野県茅野市である。内容は、飯田市が環境モデル都市の取り組みについて、茅野市がA I乗合オンデマンド交通「のらざあ」の取り組みについてである。経費は約21万円である。以上の内容で委員の派遣について議長に申し入れをしたいと思う。これにご異議ないか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長 ご異議なしと認める。では、この内容で申し出することに決定した。

日程第5、特定事件継続調査の申し出についてを議題とする。

本件は、別紙のとおり申し出ることにはしたいと思う。これにご異議ないか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長 ご異議なしと認める。では、そのようにさせていただく。

この際暫時休憩する。

午後 1時12分 休憩

---

（協 議 会）

渡辺委員長 ここで、協議会に切り替える。

それでは、協議会1、ゆう桜丘大規模改修にあたっての実施方針について市側の説明を求める。

古谷くらしと文化部長 お手元の資料を、協議会の1つ目ということでお開きいただければと思う。

ゆう桜ヶ丘の大規模改修にあたっての実施方針である。ゆう桜ヶ丘については、平成3年の3月にオープンした施設であり、今年32年目を迎える

ところである。今行動プログラム上では、令和２年度から関係団体地域の皆様と協議検討を重ねてきたところであり、令和７年の改修工事が予定されていたところであった。

この間、コロナ禍の関係もあり、地域団体、運営協議会の方々を中心に周辺住民の方々との協議を途中で少し間が空いてしまったのであるが、ここでその内容を、昨年度について児童館の利用者のアンケートの実施、運営協議会と市との調整、利用者アンケートの実施や利用者懇談会の実施を経て、大規模改修に当たっての実施方針を市としてまとめたので、そちらの実施内容、実施方針と改修のイメージ、今後の予定をご説明させていただきたいと思う。説明は田島コミュニティ・生活課長からしてもらう。

田島コミュニティ・生活課長　　ゆう桜ヶ丘に桜ヶ丘コミュニティセンターと桜ヶ丘児童館が入っているが、そちらの大規模改修工事に当たっての実施方針をまとめたのでご報告をさせていただきたいと思う。

内容は、次のページに目次があるが、ご案内のとおりコミュニティセンターは各館の老朽化がかなり進んでおり、順次大規模改修を行っているところである。これまでに昨年リニューアルオープンしたトムハウスから始めているところであるが、トムハウスを改修するに当たって市の基本的な考え方を平成３０年度当時にまとめたのでそちらに簡単に触れさせていただいて、今回のゆう桜ヶ丘の改修に当たっての実施方針の具体的な内容と改修イメージ図、また、今後の予定等についてご報告する。

次のページに基本的な考え方、これは全体のコミュニティ施設の改修に当たっての基本方針をまとめたものである。３０年を経過している施設であるので、また今後についても３０年程度使用できるようなことを前提とした改修を実施していく、また、当時はまだ第２期の五次総であったが、そのときは現行でも行っているスマートウェルネスシティ健幸まちづくりに資するような施設にしていくこと、また今後の３０年を考えると、さらに少子化・高齢化が進んでいくことが考えられるので、「若年層」という言い方をするが、そういった新しい層にも使っていただけるような新たなニーズ、機能変更についても、こういった３０年目の大規模改修を捉えてやっていくことを方針として決めている。

次のページが、具体的にコミュニティセンター改修に当たってのもう少しブレークダウンした基本方針、ガイドラインである。①から次のページの⑥まで大きな考え方をまとめているが、まず工事内容については、これは第二次ストックマネジメント計画をもっているのもので、その中で30年目の大規模改修で行っていく工事内容についてそれぞれ決定しているところである。あと②の工事の方法であるが、これはトムハウスで前例がありその際にも行ったが、基本的には全館閉館をして工事をしていく、規模については基本的に現行の延べ床面積の範囲内で行っていくということである。

次のページの④であるが、こういった改修に当たって、様々な利用者の方、また地域の住民の方のご意見等を取りまとめていただくのは、コミュニティセンター運営協議会に今指定管理で入っていただいているのでそちらが行い、それを踏まえて市と改修内等を協議・調整をしていくということである。

⑤が、一定の工事期間が発生するが、その工事期間中においても基本的には運営協議会については指定管理者として指定していくということである。だから、その工事期間中全館閉館になるので、一定の最低限の事務所機能については運営協議会の活動場所として確保していくことを前回の中でも既に決定しているところである。

続いて5ページ目が、これまでの運営協議会との取り組みを簡単にこちらに並べている。まず運営協議会から今回の大規模改修に当たっての要望等をいただいたのが令和3年当時であった。その後、ここは児童館も併設されているので児童館利用者へのアンケート、また令和4年の10月から改修担当の係長が着任したので、そこから改めてコロナ禍を踏まえて一旦ストップしていたが調整検討を開始し、これまで運営協議会とは合計6回ほど全体の正式な協議の場を設けてきたところである。令和4年11月に実際にゆう桜ヶ丘を利用している方へのアンケートを運営協議会にやっていただいて、昨年12月に利用者懇談会を行ったところである。この内容での実施方針ということで、先週9月9日に市民への説明会を行ってきたところである。

次の6ページ目が、今回のコンセプトと基本的な考え方。これは運営協議

会に考えていただいて市に提出いただいたものであるが、改修のコンセプトとしては、皆さんが集える明るいコミュニティセンターにすることと、あそこは原峰公園に囲まれた環境でもあるので、そういった緑や環境をうまく利用した憩いの場にしていくということが一番大きなコンセプトで、その下に基本的な考え方として4つほどいただいている。あそこに行っていた方はご案内かと思うが、かなり落ち着いた雰囲気があるので、そういったものについては改修後も引き続き残していきたい。

また、従前は入浴施設等があったが今は使用していないので、そういったものを撤去して新たな機能に転換していく。あそこは一時的な避難所に指定している。コミュニティセンターの中では唯一であるが、そういった際に避難所として使えるような、特に地震のときの補強についても今回行っていく。これまで使い勝手が悪かったところや新たな施設についてはこれを機に導入していく。あそこは今申し上げたように児童館と併設して、運営協議会の事業と児童館事業をかなり一体化して行っているので、一緒にやりやすい配置の見直しも今回していきたいと思っている。

具体的に行っている内容の中で、特に各部屋、いろいろ様々不具合等があり、これを機会に直していくことはたくさんあるが、その中でも一番大きなところだけ挙げたのが、次のページ、7ページ目になる。基本方針に基づく改修内容については、先ほど申し上げた全体のストックマネジメント計画等で30年目の大規模改修を行っていくものについては、基本的に今回行っていきたいと思う。

また、2番目の環境対応（環境配慮技術項目）であるが、こういった環境配慮については、環境推進本部等で市全体の考え方の中で考え方も整理されているので、そういった必ずやっていくもの、基本的に標準項目A、また今回ゆう桜ヶ丘の特性に合わせてやっていくもの、空調の効率化を目指してここでGHPに切り替えていく、あそこは太陽光発電を屋根貸しで一部やっているが、先ほど申し上げた避難所にもなっているので、そういったときにも活用できるような太陽光発電についてもここで入れていきたいと思っている。

それ以外の標準項目については、基本的には環境推進本部で、今回必須で



やっていくものについてはこの機会に入れていきたいと思っている。防災対応ということで、これも一次避難所になっているので、マンホールトイレ、停電時の電源の確保、テレビ設置箇所についても確保していきたいと思う。

それから、バリアフリー、ユニバーサルデザインの点では、今児童館のトイレはお子さん向けのトイレになっているが、これをお子さんも大人も使えるような多目的トイレに変えていく。今2階には多機能トイレ、いわゆる障害をお持ちの方に対応したトイレがないので、2階の男子トイレについてはこの改修期間に多機能トイレ化をしていく。あと後ほど説明するが、子育て広場事業を行うため一部レイアウト変更をするが、その中で、きちんとした授乳室が桜ヶ丘児童館の中にないので設置していく。駐車場は現行3台分あるが、障がい者用が確保できていないので、この機会に障がい者用の駐車場も設置していきたいと思っている。

それ以外に、外部照明、防犯カメラをふやしていく。後ほどご説明するが、今後のデマンド交通、地域交通ということ、今実証実験がストップしているが、それを見据えた車寄せについても入り口付近に設置していきたいと思っている。

今申し上げた特に大きなところ、レイアウトが一部変わるようなところを抜き出して図面を引いたのが、8ページ目、9ページ目になる。特に8ページ目は1階部分であるが、平面図のうちの特に下側が南側になるが、先ほど申し上げたようにあそこは桜ヶ丘児童館が併設されている部分であるので、今、子育て広場をやっていくための専用のスペースがなかったところもあるので、少し見づらくて恐縮であるが、左側の事務室の部屋を区切って、一部子育て広場事業を行えるようなスペースを確保する。

併せて、今まで図書コーナー、今黄色になっている部分を持っていたが、こちら側に少しスペースを割いて事務室を広げ、旧の図書コーナーについては遊戯室に入れるということで、ここの黄色の部分はフリースペース化していく。あと右側の部分、紫で塗っているところが、これまで浴室があったのでここがボイラー室になっていたが、使っていないので、こちらについては倉庫にしていく。あと緑の部分、今シルバーサロンということで、以前

浴室の前室のような形で和室になっていたところがあったが、そちらのあたり、全体の更衣室・ロッカー・倉庫等が今確保できていない状況だったのでこの部分を使って確保することと、あと洗濯置場等についてもこのエリアを使って確保していきたいと思っている。

一番下は運協ルームということで運営協議会の皆さんが占有して使える部屋、これはトムハウスでも確保したが、そういったものについても旧の浴室部分を使って今回確保したいと思う。あと、左側の水色の部分、これもトムハウスでも確保したが、今後市の職員が巡回してサテライト的に使っていくことも想定しているので、この水色の部分については市が直接使用できるスペースとして確保していきたいと思っている。

次のページが2階部分で、2階部分は大きなレイアウト変更を今回かけないが、先ほど申し上げた男子トイレを多機能トイレ化していくということと、あとトイレの左上の部分にかなり余裕があるスペースがあるので、これも利用者からのご要望もあり、個人で学習するような、カルガモ館やトムハウスにはつくったが、そういったものが桜が丘エリアについても欲しいというお声に応じて、ここの部分については学習スペースとして活用していきたいと思っている。

最後、10ページ目が外構になるが、先ほど申し上げた駐車場は現行3台分しか確保できておらず、かつ身障者用のスペースも確保できていないので、身障者用の駐車場を含め最低4台は確保していきたいと思っている。ただ、ここについては運営協議会から駐車場をもう少し確保できないかというお声もあるので、引き続き検討していきたいと思っている。外部照明と防犯カメラについては一部増設をしていく。あと左側にあるが、先ほどご説明した車寄せであるが、これまで実証実験がストップしているが、ここのエリアは地域の中での移動が問題になっているので、今後を見据えて何らか、バスやタクシー等、まだ手法は固まっていないが、一部この待機場所・滞留場所として活用できるような1点スペースを確保しておくことは大規模改修に合わせてやっていく必要があるだろうということで、車寄せについてはここの部分に確保していきたいと思っている。

続いて11ページ目が、全体のスケジュールになる。9月現在で市民説明

会が終わり、今議会に実施方針を説明させていただいているが、今後10月に補正予算を計上し、12月議会に設計予算を計上させていただこうと思っている。その上で設計業務の契約をし、基本設計・実施設計を行い、その後、改修の実際の工事関係の予算計上を行い、今の予定では工事の契約議決を令和7年の9月議会に上程させていただこうと思っている。その後全館閉館して工事に入り、今施設保全課に検討いただいたスケジュールの中では、一応予定としては令和8年度の2月、令和9年2月にリニューアルオープンを目指していきたいと思っている。その間については、事務室、児童館も代替施設を検討していきたいと思っている。

最後が、この工事期間中の運営協議会の皆さんの予定であるが、先ほど申し上げた事務所を、トムハウスのときもそうしたが、できればエリア内に一定の場所を確保していきたいと思っており、こちらの(2)に掲げたような活動については工事期間中についても引き続きやっていただきたいと思っている。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

橋本委員 一つは、11ページに日程というか予定表もあるが、令和8年、2026年は閉館をしているとなると、ゆう桜ヶ丘の今年も開かれたお祭りのようなものは、その年は開かれないことで運営協議会の方たちも納得されているのか。

田島コミュニティ・生活課長 言われるように、ここで3年ぶりに夏祭りが8月の終わりに開催された。少なくとも令和7年については、なるべく閉館ぎりぎりの中でやれるようにスケジュールはもう少し詳しく聞いていきたいと思っているが、令和8年度についてはまだ工事中である。一応工事が終わるのが、ここにもあるように秋ぐらい、11月末を今想定しているので、令和8年度に関しては夏の時期はどうしても閉館中となり、ああいった夏・秋にかかるイベントについては、申しわけないがこの年度についてはできそうにないと伝えている。

橋本委員 参考のために、トムハウスとゆう桜ヶ丘の計画が出て、その後順次になるのか、それとも年度が重なることがあるのか、コミュニティセンターの改修計画の順番が今わかっていたらお知らせいただきたい。

田島コミュニティ・生活課長 順番については、まずトムハウスからやらせていただき、次がゆう桜ヶ丘である。その次は、順番的に乞田・貝取ふれあい館を考えている。

ただ、ふれあい館については第三小学校の建て替え工事の関係もあるので若干流動的であるが、順番的には乞田・貝取ふれあい館があり、こぶし館、その後順次ひじり館、愛宕かえで館等が入ってくるかと思う。大きな財源等で今固まっているのはそこまでぐらいである。

橋本委員 第三小学校の話が出たので、地域の人がいろいろ納得できれば前後を知るといえるか、それほど計画どおり30年とはいかず、ここも32年、数年延びることがあるかもしれないことを確認させていただいて、例えばふれあい館とこぶし館が同じ年度どこかでリンクするようなことはないのかあるのか。というのは、ふれあい館と貝取こぶし館などが同時に閉まってしまうと行く方面の人が割合重なるかと思うが、その辺だけお聞きしておく。

田島コミュニティ・生活課長 今ご心配いただいたように、改修によって同時に2館が閉館するようにはならないように組んでいるので、一部始期と終期が若干重なることはあるかもしれないが、基本的に2館同時に同じ年度で改修工事というのは体制としても難しいので、そうはならないように順次若干年度をずらしながら今後改修していきたいと思っている。

橋本委員 児童館は一ノ宮児童館から人が派遣されるという形で今運営されていると思うが、そうするとその間に児童館を利用したいというご家庭はどこを使う形になるのか。

田島コミュニティ・生活課長 児童館については、私が所管しているわけではないので詳しくは申し上げられないが、市民説明会の中でもそういったご質問をいただいた。一応今回の資料の中にも入れているが、所管としては代替施設を確保していく方向で検討すると申し上げていた。

ただ、あのエリアは小学校自体がないエリア、1丁目から4丁目まで学校施設がないエリアであるので、トムハウスのときのように西落合小学校の教室2つを確保するといった対応はできないということで、今場所を探すにかなり苦慮しているようである。少なくとも、この工事期間中については、何らかの児童館機能をどこかの場所で確保していきたいと所管では考

えていると思う。

橋本委員

今言われたようにあそこは第一小学校から第三小学校まで、1丁目から4丁目まで一周して全部違う学校に行っている。真ん中にあるとしたら桜ヶ丘ロータリーの集会場くらいで、あと、ありそうなのは個人のお宅である。一番近いところは市役所かとも思うが。最近子どもの数が非常にふえてきた地域であるので、児童館の利用者は、一度公共施設の統廃合のときにあそこで伺っているいろいろヒアリングしたところよりも、ずっと利用度が高くなっていると思う。だから、悩まれるかもしれないが、結構時間も長いことがあり、あそこに住んでいる人たちの子どもは、一度学校から帰ってくると、簡単に遊びに行けない。ニュータウンだと何百メートルか行けば何とかなるといった感じではないので、ぜひ知恵を出していただいて所管課とご相談いただきたいということだけ申し上げておく。

ほかに質疑はないか。

しらか委員

これ予算は大体幾らぐらいを見込んでいるのか。

田島コミュニティ・生活課長

まだこれから設計に上げていく段階であり、特に具体的にどのぐらいの金額になるのかは、設計してみないと何ともはじけていないところである。参考になるのが一番新しい事例のトムハウスとなる。トムハウスについては、今回の決算でも出しているが、備品購入等も含めて全体で6億6,000万円ぐらいの決算額になった。トムハウスとゆう桜ヶ丘は造りもかなり違うから全く参考程度にしかならないと思うが、おおむねこういった金額になるかと思っている。

ただし、ご案内のとおり、この後の物価高騰等もプラスしてあるので、トムハウスと同じような金額で収まるかということ、そのようにはならないかと思っている。

しらか委員

これからいろいろなものの大規模改修があると思うが、ある程度パイが決まっている税収であるので、その中で青天井というわけにはいかないと思う。それにおいても大規模改修は今後30年間を見越してということであればそれなりに金もかかるかと思うが、その辺の見積りといったことなるべく早く私たちも共有したいのでよろしくお願いします。

渡辺委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

次に、協議会2、多摩センターわくわくプロジェクト進捗状況報告について市側の説明を求める。

佐藤都市整備部長 協議会議会番号2番の多摩センターわくわくプロジェクト進捗状況報告から5番目の多摩市道6-10号歩線(鶴牧東公園沿い遊歩道)街路樹環境更新素案についてまでの4件が都市整備部所管となる。それでは、順次担当課長からご説明をさせていただく。

松本都市計画課長 2番、多摩センターわくわくプロジェクト進捗状況報告である。こちらについては、9月12日総務常任委員会の協議会でもご説明させていただいている内容であるので、フォルダは、総務常任委員会のフォルダに行っていたら、9月12日のフォルダの中にある協議会16の資料になる。

多摩センターわくわくプロジェクトについての定例的な報告で、令和6年度にまちのビジョン及び都市再生整備計画などを策定するに当たり、委託業者と契約したところであるが、6年度の計画策定に向けて5年度はまちづくりの社会実験や人づくりに取り組んでいく。

6月議会でのご報告以降の動きと、今後の具体的な取り組みについてご報告させていただく。項番2、公共施設のリニューアル進捗状況であるが、中央公園の一部、中央図書館に面する南側のブックパークエリアが10月中旬に開園する予定となっている。

項番3、令和5年度から令和6年度の主な事業であるが、1にあるとおり計画策定に向けた社会実験に関しては、パルテノン大通り、レンガ坂、ハローキティストリートを主な場所として予定している。

2ページ目に移って、(2)にあるとおり、第1弾の社会実験を10月の28日・29日のハロウィンに合わせてレンガ坂で行う。社会実験に向けてのワークショップについては、9月23日、10月4日、10月14日の3日間で実施する。最初の2回は今後予定している社会実験の場所全体でやりたいことを検討するものとなり、それを踏まえて3回目でレンガ坂での社会実験についてブラッシュアップさせ、安全な走行とにぎわいを試行的に実施する10月末の社会実験につなげていきたいと考えている。また、

ハロウィンでの社会実験の前後1週間で平日における交通量調査などを行い、イベント時と平常時をもとに検証していく。

2ページの下に参る。(3)であるが、まちづかいにおいては人づくりも重要となるので、こちらに示した多摩ラボ(仮称)の活動を活性化していく。多摩ラボ(仮称)は場所を指すものではなく活動を指すもので、現在ワークショップを月2回ほど行っている状況である。9月～10月に行う社会実験に向けたワークショップも多摩ラボ(仮称)を企画として進め、多くの主体者となる人たちが動き出すきっかけづくりを担っていく。

3ページに移って、(4)のとおり多摩中央公園・多摩センター連携協議会の事務局としてパルテノン多摩5階にクリエイティブキャンパス企画室を7月1日に開設している。公園の改修期間中はクリエイティブキャンパス企画室を活動の拠点に公園周辺施設と市民活動をつなげ、活動の輪を広げていく。

4ページは、ご説明させていただいた今後の予定で、社会実験等の予定をお示させていただいており、5ページ目には、本件に係る推進体制、令和4年度の取り組みを参考ということでお示しさせていただいている。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて協議会3番、多摩市都市計画に関する基本的な方針(都市計画マスタープラン)の改定に係る進捗状況について、市側の説明を求める。

松本都市計画課長 こちらの資料については、生活環境常任委員会のフォルダに移っていただけるか。本日9月14日のフォルダの中の協議会案件の3番の資料をお開きいただきたいと思います。

多摩市都市計画に関する基本的な方針(多摩市都市計画マスタープラン)の改定に係る進捗状況についてご説明させていただく。この都市計画マスタープランの改定については、令和6年度末を目途に改定を進めているところであるが、本件については令和5年3月22日の令和5年第1回定例会生活環境常任委員会の協議会においても、令和4年度の進捗進捗状況についてご報告させていただいたところである。本日は前回ご報告以降の経

緯についてご報告させていただきたいと思う。

まず1ページ目の2であるが、令和5年度における検討の経緯である。こちらについては、関係各課長で構成される庁内の委員会については合わせて4回、外部学識経験者・市民で構成される委員会の開催については3回実施しているような状況である。また、進捗状況については都市計画審議会にも報告させていただいているような状況である。

また、今年度の予定であるが、3番にお示しさせていただいたとおり、11月中旬には市民の方々への中間報告説明会を2回ほど開催する予定である。年明けの1月には都市計画マスタープラン改定に伴う地域別ワークショップを2回、全体ワークショップを2月に開催する予定となっている。

3ページ以降に、資料1から4として、現時点で公表している資料の最新のものをつけさせていただいている。まず資料1についてであるが、こちらについては市民意向調査の結果である。3ページ目が市内全域の状況、4ページ、5ページが既存区域とニュータウン区域の傾向ということでまとめさせていただいたものである。各項目の結果を見ると、全体的に一番多い回答については、既存ニュータウンとも傾向は同じような状況であったが、比較してみると、例えば既存区域では災害に強い安心して暮らせるまちを望む傾向が強かったり、ニュータウン地区では団地マンションの老朽化と建て替えの困難さに不安を感じられている方が多いなど、課題として捉えている部分に若干の傾向の違いが見られるところがあった。こちらについては、後ほどご確認いただけたらと思う。

続いて、資料2に参る。6ページに移っていただけるか。こちらについては、令和5年3月20日・23日・24日に多摩市都市計画に関する基本的な方針改定特別委員会において現地視察を行った結果をまとめたものになっている。現地視察は、基幹的都市機能を有している場所、開発が進行計画されている場所、居住環境の現状把握などをしたような状況になっている。かなり多くのご意見をいただいているところである。こちらについても、個別の動きについては、後ほどご確認いただけたらと思う。

続いて、資料3についてである。20ページに移っていただけたらと思う。こちらについては、内容は精査中であるが、令和5年8月24日の都市



計画審議会では報告させていただいた内容となっている。

こちらが都市計画マスタープランの改定骨子案ということで現在検討を進めている内容の状況である。改定の目的や位置づけの整理を行い、目標年次をおおむね20年後の2040年代とし、全体の構成を示している。全体構成のうち、まちづくりの方針までを市全体に係る方針として、11月に予定している都市計画マスタープラン改定中間報告説明会で市民の皆様へご報告させていただく予定として、現在内容について議論を行っている状況である。

続いて、21ページをご覧いただけたらと思う。こちらのページの右上のところにまちづくりの将来像を掲げさせていただいているが、第六次多摩市総合計画との整合も図りながら検討したところで、多様なにぎわいと緑を育み、誰もが安心して活動でき、住み続けられるまち多摩としたらどうか、ということで整理をしているような状況である。

続いて、22ページをご覧いただけたらと思う。改定都市マスタープランの将来像については、点線面であらわす現行の計画の考え方を踏襲しつつ、将来像の実現のために目指すべき都市構造の骨格について検討し、拠点・軸、ネットワーク、ゾーニングとした。拠点については、都市拠点として聖蹟桜ヶ丘駅、多摩センター駅、永山駅の3駅の駅周辺とした。なお、駅周辺のまちづくりの方向性については、現行の計画では地域別まちづくりの、市内をゾーンに分けた中での整理というにとどまっていたので、今回のマスタープランでは、この3駅を拠点別まちづくりの方針ということで特出して整理をしていきたいと考えている状況である。

また、軸として、多摩ニュータウン通り軸、南多摩尾根幹線軸の2つを位置づけるところである。南多摩尾根幹線沿道では土地利用が今後進んでいく方向にあるので、こちらを一つの軸として設定する。また、多摩ニュータウン通りについては、市の中心を通るし、3つの駅拠点とつながる軸にもなる。また、既存区域とニュータウン区域をつないでいることから、この2つを大きな軸と位置づけて、この3つの駅拠点、2つの軸というところを市の重要な点として位置づけるところである。

続いてネットワークについては、改定都市計画マスタープランでは、交通

施設としての道路や鉄道と緑の視点で整理したいと考えている。なお、みどりのネットワークについては、現在みどりと環境基本計画の改定作業中であることから、それとの整合性をとっていく。

続いてゾーニングである。ゾーニングについては、現行都市マスタープランの将来都市構造の基本ゾーニングを基本とし、同じ記載を基本的にはする予定である。それに合わせて追加する項目としては、主な公園緑地等を新たに設定し、また広域型複合地ということで南多摩尾根幹線沿道を位置づけることを考えていきたいと思っている。

続いて23ページ目をご覧くださいと思う。まちづくりの方針となる。こちらについては、現行の都市計画マスタープランでは8つの方針で示しているものであるが、少し整理・再修正して5つの分野に整理した。こちらもおおむね20年後に多摩市がどのような都市になっているか、どのような都市になるべきかという将来の姿を示していくものである。

資料の読み上げは省略させていただくが、この中の項目の中で今までお示ししていなかったものを少しご説明させていただきたいと思うが、26ページ、水とみどりの方針というところに、脱炭素型まちづくりの記載をさせていただいている。こちらについて、この時点では水とみどりの方針に入れさせていただいているが、気候非常事態宣言を出している多摩市の状況、また災害レベルのような状況に温暖化が進んでいるというところもあるので、こちらを安心・安全のほうに移したらよいのではないかなというような意見もあり、こちらについては場所を少し移行させる方向で整理を進めていきたいと思っている。

続いて29ページに参る。29ページについて、新たに追加させていく安全・安心の方針のところに事前復興、バリアフリーについて記載をさせていただこうと考えている。バリアフリーについては、市民意向調査をさせていただいた中でも、市民の方々からの要望が非常に高いというところもあったので、こちらについては新たに追記をさせていただきたいと考えているような状況である。32ページまでが、こちらのまちづくりの方針ということで示させていただいているものである。

最後のページ、33ページをご覧くださいと思う。こちらについて

は、地域別まちづくりの方針についてということで、現行の都市計画マスタープランでは8地域としているものを、第六次総合計画に関連する地域競争で検討中の10の区分けを基本に、地域特性の近い区域を一緒にし、その地域分けが都市計画上の整理がつきづらいものについては地形地物で地域を区分けしているような状況である。

こちらニュータウンをまず見ていただきたいと思うが、ニュータウンのオレンジ色のところは既に諏訪・永山まちづくり計画、愛宕・貝取・豊ヶ丘地区等まちづくり計画ができています。既にニュータウンの再生の計画ができていたエリアを一つのエリアとし、ニュータウンの残りのエリアの落合・鶴牧・唐木田方面を一つのエリアとした。

また、既存のエリアについては、桜ヶ丘・関戸・一ノ宮を一つのエリアとし、和田・百草を一つのエリア、また連光寺・聖ヶ丘を一つのエリアとして5つのエリアに区分けをする中で地域別のまちづくりの方針を検討していきたいと思っている。この5地区を基本に今後ワークショップをしていきたいと考えている。

長くなったが、都市計画マスタープラン改定に係る進捗状況についてご説明を終わりたいと思う。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

しらた委員 何となく道路で、鎌倉街道、ニュータウン通りと分けている感じがするが、「野猿街道」という言葉が一回も出てこなかった。野猿街道の和田等はどうような計画にしているのか。

松本都市計画課長 都市計画改定特別委員会でも、野猿街道も非常に重要な地区ではないかという意見をいただいたところである。そのような中ではあるが、このまちづくりの拠点となるところについて議論した中では、まずは多摩市がまちとして発展してきたところは多摩ニュータウン通りが大きな役割を担っていたのではないかと、また今後のまちづくりが大きく変わっていくところとしては南多摩尾根幹線を位置づける方向性ではないかということで整理がされたところである。また、野猿街道沿いのまちづくりをどうしていくのかについては、これから地域別のまちづくりの構想の検討もしていくので、そのエリアごとの地域別の検討の中で整理できたらと考えている。

しらた委員        ニュータウンが多摩市の7割8割と言われてメインかもしれないが、既存のところだけが地域別エリアで何とかやっていくという方向性はわかるが、和田には駅も何もなく、そうなると何か取り残されているような感じがする。

もちろん和田だけではなく東の連光寺もそういうところだと思うので、そういう既存のところもしっかりとこれから検討していただきたい。駅で言うと、聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、多摩センター駅で、唐木田駅が抜けている。駅で唐木田駅を抜いたことは第六次多摩市総合計画審議会でもそのことが少し議論されていたようであるが、唐木田駅がなぜ抜かされたのか、その辺をお聞きしたいと思う。

松本都市計画課長    こちらの唐木田駅をどういう位置づけとするのかについては、上位計画の東京都の区域マスタープランにおいて、唐木田駅の位置づけが多摩センターと連担した位置づけであり、尾根幹線と併せてまちづくりが進んでいくような位置づけとなっているので、今回位置づける南多摩尾根幹線軸と併せて唐木田駅周辺をどう考えていくか整理していきたいと考えている。

しらた委員        整理しておきたいというか1点確認であるが、鎌倉街道とニュータウン通りは皆さんどのように、ニュータウン通りは乞田五差路のマクドナルドのところまでがニュータウン通り、鎌倉街道は小野路から来たところを回って鎌倉街道であると私は理解しているが、ニュータウン通りと言うと関戸橋まで行くのが皆さんニュータウン通りと思われているような気がする。私が間違っていたら認識変えなくてはいけないと思うが、その辺はどのようにされているのか。

檜島道路交通課長    鎌倉街道は関戸橋から乞田五差路を左というか町田方面に曲がったところであり、乞田五差路から南大沢方面に行くのがニュータウン通りという位置づけである。

岸田委員        先ほど都市計画課長のご説明で、今後市民ワークショップ等も行われていくと聞いたが、多摩市では子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例ができ、特にその基本理念を見てみると、まちづくりへの参画というところが入っていて、特に市としてもそこへ、力を入れていかなければならないところだと感じておられると思うが、今までもこういうワークショ

ップには子どもを閉め出すというか、若者がなかなか入りにくいということとはなかったと思うが、何か工夫をしなければなかなか子どもが今ご説明いただいたことを理解して議論したり考えていくことは難しいと考えたときに、子どもが参加できるような工夫あるいは特別なワークショップが必要であると考えられると思うが、まちづくりに参画するために、何かふだん関われるようなことを考えておられるかどうかお伺いしたいと思う。

松本都市計画課長 都市計画マスタープランの改定に当たって、市民のアンケート調査については、中学生の方々にも意見をいただいているような状況がある。ワークショップへの参加については、今後たま広報を通じてご参加いただくというところはご案内していきたいと思うが、たま広報等を見ていただく中で学生の方々が手を挙げて参加するかというと、注目してもらうことも難しいかもしれない。そういったところでは、参加を多くいただけるようなご案内なども工夫していきたいと思う。

岸田委員 子どもの場合、行ける範囲や距離、あるいは話せる場所だったり、自分がよく知っていないところで大人と混じってする、大人が大多数のところ一人で行くのは難しい場合もあるので、その点は子ども青少年部が所管でよくご存じだと思うので、いろいろ連携しながら工夫して行っていただきたいと思います。

橋本委員 市民参加のワークショップということでは、前回の都市計画マスタープラン改定のときも、担当の方は替わっているが、地域ごとに集まっていたらご意見を聞く場を設けたと思う。その方たちはもう一定の年齢を過ぎたのであるが、この都市計画マスタープランの新しい動きを見て、あの時には例えば乞田の地域だったら乞田川のことや乞田五差路のこと、いろいろな意見がたくさん出たが、都市計画マスタープランというのはつくるための過程でいろいろ意見を言ったが、今になってみるとそれがどのようにプランになって変えられたのか全然実感がなくて、今度ワークショップと言っても行く気になれないというご意見をいただいたが、市民参加にはなかなか難しいところがあると思う。限度があり、出た人の言ったことがどこかのページに書かれているわけでもない。

ただ、このような感じを持たれた方は、次のワークショップへの期待感が

減ってお出にならない、意見を言わない。そういうのを複数の方から聞いたので、この辺のところでもワークショップのやり方はなかなか難しいなと思ったが、市としての認識をお聞かせいただけたらと思う。

松本都市計画課長 市としても、計画づくりは行政だけでしていくものではないと思うし、市民の方々のご意見をいただきながらつくっていくといったプロセスがやはり重要だと思っている。一体意見がどこに反映されているのかわからないし、それがこの10年で前回の都市マスタープラン改定のときからどこに反映されたのかが見えないというのは、市としても非常に厳しいご意見いただいているなと思うところがある。意見をいただいた方々が、自分の意見が今後のまちづくりに反映されたのだと思えるような見せ方がきちんとできるように、少し工夫していきたいと思う。皆様からいただいた意見については、文書の前面には出ていないがここの思いに入っているということをお伝えできるような機会が取れるとよいかなと思う。

橋本委員 そういうご意見が出たのは、私も途中からニュータウンに越してきた人であるが、10年前の時にはいわゆる既存地域で生まれ育った方が結構発言をされていた。その方たちもお年を召されて、ましてや交通問題に関わると、多摩センター行きのニュータウン通りのバスを、交通機関をと言ったが、それも実験をするともう可能性がないと言われて、長い間多摩市の土台をつくってきた人たちの意見が全然反映されなかった、自分の土地を供出したのに等、いろいろそういうご意見が今度耳に入ってきた。

どうやって書くか難しいとは思いますが、既存地域に住み続けた方がだんだん減っていくと、特にニュータウン地域の関連のところでは声も出なくなってしまうと思うので、その辺は申し上げておく。意識的に前回出たという方にお話を聞いたらそういう声があったので、がっかりさせないような形で何らかのワークショップなり、説明会でそういう声を少しでも取り上げていただけると、頑張ってニュータウンを支えてきた地域の方にとっても非常に喜ばれることではないかと感じたので申し上げておく。

渡辺委員長 ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて協議会４番、多摩ニュータウン再生の進捗状況について、市側の説明を求める。

内田ニュータウン再生担当課長 それでは、協議会４のファイルをお開き願う。

まず１つ目、南多摩尾根幹線沿道土地利用方針に基づく土地利用転換についてである。経過であるが、今年４月に創設した多摩ニュータウン尾根幹線沿道まちづくりプラットフォームの取り組みとして、趣旨にご賛同いただいた民間事業者等へのヒアリングを実施し、尾根幹線沿道、諏訪・永山エリアでの事業提案等、土地活用のアイデアをいただいている。プラットフォームでのアイデアについては、これまでいただいている市民意見とともに、８月２日に開催した多摩市ニュータウン再生推進会議の議論における参考とさせていただいている。

プラットフォームについては、特定の企業・業態を誘致するものではないことにはご留意いただき、次の２ページ目に参考としてプラットフォームでの個別ヒアリングの結果の概要をまとめている。上が会員登録いただいた事業者９社によるもの、下が非会員ではあるが、左上にご協力いただいた４社からのものである。

会員９社からは、諏訪・永山地区の尾根幹線北側沿道を対象として導入が考えられる機能として、商業施設、子育て・公益施設、その他として自動車関連施設やデータセンターなどがある。敷地の使い方としては、１敷地に１施設という考えではなく、複数の敷地を一体的に活用が考えられるというようなご提案があった。土地利用の要望としては、用途地域として２種住居地域から近隣商業や準工業地域といったご提案、周辺整備では南多摩尾根幹線からのアクセスとして副道整備が必要というようなご意見があった。地域貢献というところでは、地元雇用の創出、災害時の協力、環境に配慮した施設立地などのご提案があった。

非会員４社においては、スーパーや大学などなどの学校キャンパス、データセンターや物流施設、敷地の使い方や土地利用の要望、地域貢献といったところでは、会員と同じようなご提案があった。

再生推進会議では、諏訪・永山地区の尾根幹線の沿道北側、さらには貝取・豊ヶ丘地区の沿道北川について、今住居系の用途地域であるが、それを

商業や業務、産業といった土地利用転換について現在改定作業中の都市計画マスタープランへどのように反映するかご議論いただき、都市計画マスタープランの骨子案へのご提案をいただいている。

ご提案を踏まえて都市計画マスタープランに反映しているが、先ほどの協議会で説明があった将来都市構造の２２ページでご説明したが、南多摩尾根幹線を軸ということで位置づけし、北側沿道の土地については広域型複合地ということで現在位置づけをしている。

今後の予定であるが、来年１月頃開催予定の再生推進会議で引き続きプラットフォームを活用しながら諏訪・永山沿道エリアの土地利用転換に向けた検討を進めていきたいと考えている。

次に、１ページ目にお戻りいただいて、２、その他について、UR都市機構による団地再生の状況をご報告する。図がなくて恐縮であるが、諏訪２丁目の多摩ニュータウン諏訪団地内においては、今年の５月より計画戸数１４８戸の賃貸住宅の建設工事が進められている。また、昨年１０月に着手した旧東永山小学校の解体工事が７月に完了し、その跡地においては１１階建て約３６０戸のUR賃貸住宅の建設が計画されている。明後日の１６日に、東京都の中高層条例に基づいて対象エリアの方に建設計画の説明会が実施される予定である。

渡辺委員長       市側の説明は終わった。質疑はあるか。

橋本委員       その他の２番目のことで伺う。近隣住民というのは、本当に今住んでいる永山の賃貸住宅の人たちのことなのか、それともそれより南のこれから様々な開発の中でこの３６０戸にも移動していただく可能性のある人たちをメインにした説明なのか、どちらなのか。

内田ニュータウン再生担当課長   まず東京都の中高層条例に基づく説明であるが、東京都の条例に基づいて旧東永山小学校跡地に１１階建てを建てるのであるが、大体３５メートル以下の高さであるが、その２倍の敷地、２倍の範囲のエリアのお住まいの方にどうしても日影が落ちてくるので、そういった方を対象に説明するということである。だから、永山団地にお住まいの方もおられるし、反対に諏訪の一部、B r i l l i a といったところも２倍にかかっているもので、そういった方に戸別に配布して説明会を実施するというもの



である。

橋本委員 建設のための説明になると思う。以前から出されているように午前中にあった諏訪の4－3街区はやがて改修されるという見通しもある。永山4－3街区も当然尾根幹線の近隣であるが、この方たちを対象に、こういう建物の建設ではなくこちらに移動する可能性も含めての説明というのはされたのか、これからされるのか伺う。

内田ニュータウン再生担当課長 まずUR賃貸住宅については、平成30年12月にUR賃貸住宅ストック活用再生ビジョンをUR都市機構で策定している。その中で永山団地については、まず団地の再生の類型として、今の団地を使って大規模改修をしていくストック活用、建て替えや大規模改修等のいろいろな組み合わせで再生をしていくストック再生、それと土地所有者等への譲渡・返還等というような3つの類型になっており、永山団地についてはストック再生ということでまず位置づけられているところである。

今後、永山団地については、居住者の方とどういう再生を進めていくのかまず話し合いを進めるというのが第一歩で、今現在永山団地にお住まいの方に個別に説明会をするというビラを配布しており、今週の金曜日・土曜日にお住まいの方を対象に説明をしていくと伺っているところである。

橋本委員 同じような建て替え・引っ越しがあっても、諏訪の都営住宅の場合は4－1にいた人は引っ越すのだったら3－12だというような引っ越し方の建て替え、UR都市機構の場合はまたイメージが違う。そういう形で皆さんのお住まいのところが少し老朽化しているいろいろなことだからという感じとまた違うと思う。近々説明会があるとのことだったので、ぜひ住民の皆さんに、まちづくりの考え方があったらそれをわかっていただくように時間をかけながら、ぜひご理解が進むよう取り組んでいただきたいということだけ申し上げておく。

しらた委員 このニュータウン再生ということと、南多摩尾根幹線沿道でいろいろと宗教団体の方で騒がれているといういろいろなあるが、ここにこの方針をする中で、何も議題にならないというか、何も言われてこない。皆さん、何も気にしないで進められているのだろうか。

内田ニュータウン再生担当課長 まず南多摩尾根幹線沿道土地利用方針については、尾根

幹線沿道にある公的な土地、例えば市の学校跡地、UR賃貸住宅、都営住宅といったものについて、将来住居系用途地域から商業系用途地域に転換していくという方針を示したというところが一つある。旧統一教会の話については、6月議会でもしれた委員からご質問があったが、事業者の方にヒアリングをかけた際にこういった旧統一教会があることで進出の意欲はどうかを質問したが、なかなか難しいような回答だったが、それをもって進出の意欲が失われるようなことはないという話をいただいているところである。

しれた委員 相手の方がそのように前向きな方向性であるのであれば、それに伴ってしっかりとよい方向に進めていきたいと思う。まだ今解体作業中ということでこの先どうなるかわからないが、ある程度見越していろいろな方向性も考えておくことが大切ではないかなと思うので、その辺よろしく願います。

渡辺委員長 ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて協議会5番、多摩市道6-10号歩線(鶴牧東公園沿い遊歩道)街路樹環境更新素案について、市側の説明を求める。

檜島道路交通課長 協議会番号5番である。本件の場所については、鶴牧東公園の東側にある自転車歩行者専用道路である。昨年の12月議会以降、この常任委員会でご案内させていただいている本件の取り組みについて、これまで2回の意見交換会を実施させていただき、本年6月議会の本常任委員会において意見交換会でまとめた改善モデル案について紹介をさせていただいたところである。現在、意見交換会でまとめた改善案を素案としてパブリックコメントを実施しており、市民の皆さんから広くご意見を募集しているところである。パブリックコメントの募集期間については、令和5年の8月14日から9月15日となっており、市公式ホームページ、たま広報の8月5日号に掲載してご案内をしているところである。

現在パブリックコメントやホームページ上で公開している素案についてご説明をする。2ページ目をご覧願う。ここでは、1つ目に、多摩市におけ

る街路樹の現状、2つ目に、多摩市街路樹よくなるプラン改定版のご案内、右側のページに移って、3つ目として、市道6-10号歩線の概要を示させていただいている。個々の詳細については、後ほどご覧になっていただければと思う。

この右下に(2)とあり、市道6-10号歩線の課題を示させていただいている。課題の1つ目として、歩行空間が夏場の雑草や樹木の繁茂で道幅が狭くなり擦れ違いが困難であること、2つ目に、樹木が大きくなり民地へ越境していることや重複した樹木で暗がり、根上がりも多く発生していること、3つ目に、道路中央部分に植栽されているエンジュがエンジュさび病という病気を発症し倒木のリスクがあるというものである。

3ページ目をご覧願う。街路樹環境更新素案ということで、右側のページに書かれている6項目の改善を行うこととしている。改善項目の1つ目が、幅員が1.5メートルの公園側の通路を2.5メートルに広げること、2つ目に、植樹帯の一部を土系の舗装をすることにより雑草の繁茂を抑制すること、3つ目に、植樹帯の一部を分割して歩行者の滞留スペースを確保すること、4つ目に、中央のエンジュを伐採し、新たにあまり大きくならない花の咲く樹木ということでライラックを植林すること、5つ目に、両脇のシラカシを伐採して民地への越境や暗がりを解消する、6つ目に、公園側にベンチを設置して、利用者が木陰で休憩できるようにする、また、ベンチは防災にも配慮したかまどベンチを設置するということである。

4ページ目をご覧願う。以上の改善点を踏まえた素案をパブリックコメントで提示させていただいている。この改善内容であるが、間伐本数はシラカシが23本、エンジュは10本、併せて公園のエンジュも25本ほど伐採し、ベンチを新たに6か所、それから植樹は新たにライラック9本新植する。こうした素案を現在提示させていただいている。

5ページをご覧願う。こちらが現状の平面図となるが、現状ではシラカシが44本、エンジュが10本、短い区間にかなり密に樹木が受けられていることがわかるかと思う。

また1ページ目にお戻りいただいて、今後の予定というところであるが、下から2行目、第3回目の意見交換会を10月下旬に予定しており、ここで

パブリックコメントの意見等も踏まえて最終案を参加者の皆さんに提示させていただきたいと思っている。この最終案におおむね賛同を得られたところで、11月以降から工事の試験施工を実施させていただく予定にしている。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

岸田委員 市民から例えば下の下地を白にしてほしい、暑さの関係、あるいは木陰があったほうが夏すごく日差しが強くなってよいといった地球温暖化の視点というか、そういうのは気候非常事態宣言をした多摩市にとってはどこもやっていかなければならないところであるが、この素案の中でそういった視点はどこに入っているのか。

檜島道路交通課長 意見交換会の中で地球温暖化というワードは市民の方から特段出てはいないところである。ただ、今回土系の舗装をするというお話をしたが、これは浸透性の舗装というところもあり、そういった取り組み、あと樹木もエンジュが枯れてきてしまっていることもあり、それを新植するということで、樹木自体は間伐することによって残った樹木がまたそれで成育がよくなると思うので、全体的には成育環境は整っていくかと思っている。

岸田委員 多分これから考えていくときに風の通しや熱、あるいは木陰というのはすごく暑くなっていくときに大事な視点だと思うので、そういったことを考えながら街路樹を考えていっていただきたいと思う。

しらた委員 ライラックを選んだ理由は、専門家がそのように選んだとなっているが、何がよくてライラックにするのか。

檜島道路交通課長 あまり大きくならない、花が咲くという観点からである。あと樹木を取り扱っている専門家の方から、ライラックでもこの環境だったら大丈夫だというようなお話を伺っている。一般的には寒い地方の木であるというイメージはあるが、一応この環境でも育つというお話を伺っており、参加された市民の方もよいのではないかというお話であった。

しらた委員 一応、調べると4月から5月ぐらいに開花と言われているから、その後はどうなっているのかと思うと寂しい気がしたので、ほかの方法が何かあるのかと思ってお聞きした。ただ、専門家や市民の方もそれでご納得されているのであればしょうがないと思う。だが、少し寂しい思いがあ

る。

橋本委員       ライラックは札幌の大通公園にあるので、剪定していけば小さいままかもしれないが、市の手が入らなかったら結構背は高く幅も広がる。維持管理という点では、きちんときれいに小ぶりに育てるのは大変かと思う。私は自分の実家の庭にあったのを見ているので、決して小さな木ではなく、きちんと植木屋さんがやらないとだめなので、その辺もこれから１０年２０年という月日を考えると、そういう矮小型のものもあるのかもしれないので、十分検討して選んでいただいたほうがいいのかと思う。これは専門家の方の意見も聞いたという形で、私がここで否定するものではないが、１０年後が少し心配であるので申し上げておく。

渡辺委員長       ほかに質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長       質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて、協議会６番、多摩市気候市民会議の結果について（脱炭素に向けた市民からの提案）について市側の説明を求める。

小柳環境部長       ６番から１１番までの６件が環境部のところになる。それぞれ案件ごとに課長から説明させていただくのでよろしくお願いします。

佐藤環境政策課長   協議会案件の６番、多摩市気候市民会議の結果について説明する。協議会案件６の資料をご覧ください。ページが、１３分の１３、最後のページになるが、そちらをお開き願う。こちらのページが気候市民会議の全体構成をまとめたページになるので、ここを使って説明させていただく。

まず多摩市議会の皆様についてもご見学いただき、大変ありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

では、まず参加者についてである。２１ページ、１３分の１３の上段のところをご覧ください。参加者は２,０００名の無作為抽出等で選ばれた１０代から６０代までの市民４５名で構成し、特に１０代は全体の約３割、１３名を集めることができた。参考に、最小年齢は１２歳、中学１年生だった。そのため、グループには必ず２名もしくは１名の若い世代が入ることで、大人が独りよがりにならず、若者に配慮した形で議論を進めることができたと感じている。また、幅広い市民に参加してもらいたいという思いから、マイノ

リティー当事者の方にも1名であるが参加をしていただいた。

それでは、中段から下の部分の市民提案ができるまでの歩みをご覧願う。全体構成になる。会議は、5月13日から7月29日の間の全5回開催し、目的としては、2050年の脱炭素に向けた取り組みを進めるため、私たちができることは何かを考えること、もう一つが、いただいた市民提案は次期多摩市みどりと環境基本計画の取り組みに反映させることの2点を掲げ、話し合いを進めてきた。進め方については、まず初日に国立環境研究所の江守先生や元多摩市の小学校校長の棚橋先生などから気候変動の基礎をレクチャーしてもらった後に、30年後、2050年頃に目指したい多摩市の環境と社会のイメージを出し合った。

ページを戻っていただいて、先頭の1ページ目、13分の1が、それをまとめた絵になる。

また13-13に戻っていただいて説明を続ける。議論を進めていくための方針として、温暖化対策にありがちな我慢や負担を強いるような考え方ではなく、未来の私たちの生活を豊かに楽しく、そして町に誇りと愛着、加えてほかの地域に住んでいる若い人たちが多摩市に住みたいと憧れのようなものを高めていけるように取り組みを考えていこう、思考をいつもポジティブにということを掲げながら議論に入っていった。

2回目以降は、グループに分かれ、ブレインストーミング方式で、第2回は生活編として個人が生活の中でできること、第3回は社会編としてそのために町に必要な機能や仕組みといったテーマで脱炭素に向けた具体策を出し合った。また、各回グループで話し合われた提案は、お互い発表し合い、全員で投票し、さらに後日重要度と難易度を評価するアンケートなども実施した。第4回は、第3回までに出了された様々な意見を食と消費、ごみと資源循環、暮らしと住環境、エネルギー、そのほか合わせて7つのテーマに分け、今度はそれぞれのテーマごとに議論を深掘りしていった。

具体的には、これまで出されたアイデアの中から身近な行動を変えるために有効な取り組みはどれだ、まちを変えるために有効な取り組みはどれだ、さらにそれはすぐに取り組みそうなものなのか、工夫すればできるのか、一方で、準備や時間、予算が伴い、幾つかのハードルを乗り越えないと

取り組みが難しいものなのか、そのために協力者は必要か、誰が主体となってやっていくべきなのか、これまで出し合ってきた提案を具体に実現させていくための議論を行った。また、話し合いは、随時江守先生初め講師の方の助言などもいただきながら進められた。

テーマごとにまとめたものを13分の2ページから13分の12ページまでにまとめているが、本来ならここも一つ一つ説明したいところであるが、時間の関係上割愛するので後ほどお読みいただきたいと思う。

こうして第4回まで議論してきた内容を第5回最終回でまとめ、さらに改めてみんなで確認・修正し合いながら、完成した提案書を最後市長に手渡した。その様子が左上の写真になる。最終的に市民からの提案は145項目いただいている。なお、この145項目については、現在次期多摩市みどりと環境基本計画の取り組み項目への落とし込み作業を行っているところである。

渡辺委員長      市側の説明は終わった。質疑はあるか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長      質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

次に、協議会7番、次期「多摩市みどりと環境基本計画」策定の今後のスケジュールについて（令和5年度9月～3月）、市側の説明を求める。

佐藤環境政策課長      では、協議会案件7番、次期多摩市みどりと環境基本計画策定の今後のスケジュールについてである。協議会案件7の資料をお開け願う。ワンペーパーになっている。

現在、令和4年度と令和5年度で次期多摩市みどりと環境基本計画の策定作業を進めている。今後は完成に向けてまず素案を作成し、市民説明会やパブリックコメントなどを行いながら、市民の皆さんに意見を伺う機会も幾つかあるので、議員の皆様には事前に予定を報告させていただく。

まず、今日までの策定の進捗である。下のスケジュールのところであるが、昨年度は市内部で組織する環境政策推進本部を8回、多摩市みどりと環境審議会を9回、さらに今年度も既に環境政策推進本部を1回、またみどりと環境審議会も昨日であるが第1回を開いて現行計画の検証や振り返り、そして次期みどりと環境基本計画について、構成する要素を順番に一つ一

つ確認とご意見を伺ってきた。また、それと並行する形で無作為抽出による市民アンケートや分野ごとのワークショップ、今年度については4月に若者たちによる未来創造ワークショップ、さらに先ほどご説明した多摩市気候市民会議も開催しながら、環境問題に対する関心や取り組み状況などについて市民の意見と提案を伺ってきた。

今後については、素案を10月のみどりと環境審議会にお諮りした後、12月に市民説明会、12月上旬から1月上旬にかけてパブリックコメントを予定している。その後、いただいた市民意見を反映させた形で原案を作成し、2月に予定している多摩しみどりと環境審議会にお諮りして答申をいただいた後、庁内の環境政策推進本部で次期多摩しみどりと環境基本計画を決定していきたいと考えている。生活環境常任委員会の皆様にも随時報告をさせていただきたいと考えている。

本日は、先ほどの多摩市気候市民会議の結果報告と今後の予定ということで今説明をしているものである。12月は素案の説明とパブリックコメント実施の情報提供についてさせていただきたいと考えている。3月のときには計画策定の報告をしていく予定である。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて協議会8番、令和4年度分多摩市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量算定報告について市側の説明を求める。

市ノ瀬地球温暖化対策担当課長 協議会8、令和4年度分多摩市事務事業に伴う温室効果ガス排出量の算定について報告する。協議会資料の8番をお開きいただければと思う。

多摩市役所の事務事業に伴う令和4年度分の温室効果ガス等の報告を行う。1、算定・報告の目的というところである。地球温暖化対策推進に関する法律、国の計画に基づき、市の事務事業の温室効果ガスの削減を定めた第二次多摩市地球温暖化実行計画の公共施設編を平成25年3月に策定した。当初計画については令和4年度までとしていたが、上位計画であるみどりと環境基本計画の改定に合わせ、令和6年度から新たな計画のスタートを



することになり、計画期間を令和5年度までに延長しているところである。一事業所としての多摩市役所が取り組んでいる省エネ推進、温室効果ガスの削減に対する目標の達成状況について今回ご報告するものである。

下に参考として表をつけているが、多摩市・国・東京都の目標年次一覧表として記載している。今回の報告に関しては、枠で囲っている実行計画の多摩市役所の電気の使用量と温室効果ガスの令和4年度分の報告という形になる。

次のページをご覧ください。まず1点目の目標である電気の使用量である。こちらの目標に関しては、令和4年度までに平成28年度の実績から6%の電気使用量を削減することを目標としていた。令和4年度の実績では、平成28年度と比較して16%の削減が達成できたという状況である。

下のところ、平成22年度、28年度という形で記載があるが、今回電気量に関しては、平成28年度の1,882万5,000キロワットに対して令和4年度1,581万6,000キロワットという形で16%削減できたということである。ただ、前年度の令和3年度と比べると6%電気使用量がふえているという状況がある。こちらに関しては、令和2年度がコロナ禍で施設の大部分が閉めていた時期、その次の年が若干復活し始めたがまだ完全に戻っていない時期、令和4年度からが大体ほぼ復活したという時期である。そのため、令和元年度がコロナの影響がなかった年という形で記載させていただいているが、こちらは1,621万4,000キロワットという形であるので、ここと見比べても電気使用量に関しては下がっているような状況が見てとれると思う。

3番目、温室効果ガスの排出量についてである。こちらの目標に関しては、令和4年度までに平成22年度から10%の削減を行うところである。令和4年度の実績としては、平成22年度と比較して27.9%の温室効果ガスの削減が進んだという状況である。こちらのところに関しては、平成22年度CO<sub>2</sub>二酸化炭素、CH<sub>4</sub>メタン、N<sub>2</sub>O一酸化二窒素の合計値で1,231万1,000キログラムCO<sub>2</sub>を出していたところに対して、令和4年度で887万5,000キログラムのCO<sub>2</sub>にまで削減ができたという状況である。

そちらの一番下のところをご覧くださいと思う。令和4年度に関しては、先ほど言ったとおり電気の使用量に関してふえているという状況である。こちらに関しては、先ほどコロナ禍の影響という話をしたが、もう1点パルテノン多摩のグランドオープンがあった、その他施設の新規オープンがあったのでエネルギー量に関してはふえたというような分析をしている。ただ、エネルギー量はふえたが、エネルギーの中で電気の使用量が大きいが、高圧電気の電力を日立造船の清掃工場の電力に切り替えた関係で、排出係数、電気を使った場合のCO<sub>2</sub>の発生量が東京電力と比べて低くなったことでCO<sub>2</sub>の大幅な減少につながったというのが令和4年度の状況である。

もう1ページお進みいただければと思う。最後、参考として記載させていただいている基礎排出係数と調整後排出係数を加味した実質的なCO<sub>2</sub>の排出量に関して記載させていただいた。本来電気に関しては、自分でつくって自分で使うもの以外に関しては、一度電力網に入ってしまうとどこの電気を誰が使うかというのは実は指定できないというのが本当のところである。そのため電力事業者ごとに電力全体でどれぐらいCO<sub>2</sub>を出すのかという基礎排出係数というのがこちらのところになる。この基礎排出係数が先ほどのCO<sub>2</sub>の発生量の数値のもとになっているものである。実はもう一つあり、実際にCO<sub>2</sub>ゼロの電気を使うという契約をした場合にどのような形でCO<sub>2</sub>が出ているのかを加味するのが調整後排出係数というものである。

こちらは両方とも国に報告しなくてはならないという形になっているので、今回基礎排出係数と調整後排出係数の数値を記載させていただいたところである。この調整後排出係数に関しては、二酸化炭素排出実質ゼロ、カーボンハーフ等の目標に対しての使う数値という形になるので、今後こちらの目標数値に目標を定めていくときに、こちらの数値が重要になってくるところである。一番下の表をご覧くださいと思う。平成25年度比というところで、平成25年度から2030年度までに50%の削減をするという目標に対して、令和4年度で37.2%の削減が進んでいるという状況である。2030年度までにはあと7年という形である。残り12.8%以上のCO<sub>2</sub>の削減に関して頑張っていきたいと思っている。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

しらた委員 残り12.8%、今日も一応いろいろ協議会でゆう桜ヶ丘の大規模改修、それから順にいろいろとコミュニティセンターの大規模改修が行われる予定であるが、この辺にはただLEDの電気をつける、太陽光パネルをつけるというのはうたってあったが、環境部の実際の目標として、今あそこは何キロワット電気を使っているが今度大規模改修することによってこのぐらいに抑えていきたいという横の連携というか、そういう話し合いは全然ないのか。

市ノ瀬地球温暖化対策担当課長 建物をつくる、大規模改修をするときには、環境政策推進本部で環境配慮に関して確認をしていくという形になっている。その事前の段階で私どもの課長レベルで各所管と建築、財政、環境が入り、今回の改修に関してはどの程度の環境配慮ができるのかを話し合った上で改修の内容が決まっていくという形で、ゆう桜ヶ丘に関しても調整をした上で今回の内容を決めたところである。

しらた委員 そういう話し合いをして決めた、では、目標値というのはある程度出ているのか。今回蓄電池があるわけでもないし、ただ太陽光パネルの設置ということで、何キロワットのものをつけるといったことは何もうたわれていなかった。あと予算も、トムハウスが6億6,000万円というお話はあくまでも参考であるということだった。限りある財源の中で環境問題にしっかり取り組んでいかなくتهはいけないというのは大変厳しいのではないのか。今後環境だけに金をかけるわけにはいけないので、その辺のことについては環境部としてしっかりリーダーシップをとっていただきたいと思うが、どうか。

市ノ瀬地球温暖化対策担当課長 先ほどお話しした課長級の会議では、様々これをやった場合はどのくらいCO<sub>2</sub>が削減できて逆に費用がどのくらいかかるのかも含めて検討をさせていただいたところである。その中で、限られた予算の中で最大限効果が出る範囲というところで協議を重ねた結果で出しているものである。改修によってエネルギー消費量に関しては10%、20%削減が当然進んでいく、さらに太陽光パネルをつけることによってエネルギーをつくっていくという形で今回はやらせていただくということで決めてきたも

のである。そちらの内容に関しては所管とも確認をして作成したものである  
ので、こちらに関しては確実に調整をした内容であるということでご理解  
いただければと思う。

しらた委員        ぜひこの委員会にもそういうデータをしっかりと共有していくことをお  
願いしたいので、よろしくお願いします。

渡辺委員長        ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長        質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて、協議会 9 番、第 4 回脱炭素先行地域への申請について、市側の説  
明を求める。

市ノ瀬地球温暖化対策担当課長   協議会ナンバー 9、第 4 回の脱炭素先行地域への申請に  
ついてご説明をする。資料の 9 をお開きいただければと思う。

前回 6 月の常任委員会協議会の中で、第 3 回の先行地域に対して不採択  
であったという報告をさせていただいた。その中で、第 4 回に向けて挑戦を  
していきたいという報告をさせていただいたものの続きという形になる。  
令和 5 年 8 月 28 日に第 4 回の先行地域の公募があり、こちらに応募をさ  
せていただいという内容を報告させていただくものである。

1 番、先行地域の内容であるが、これは前回とほぼ同じである。前回のと  
ころと同様で、自治体や企業が 2030 年度までに脱炭素の取り組みを進  
めていくという形を目指す事業で、選定された場合は国の交付金の対象と  
なり、脱炭素化の取り組みを進めていくという内容である。全国 100 地域  
程度が選定される中で、現在 3 回の応募が終わって 62 地域が決定済みで  
ある。本市は第 3 回に応募したが不採択となったというところがある。

2 番目、第 4 回先行地域における多摩市の申請概要である。今回の申請概  
要に関して軽く説明をさせていただく。エリア内の事業化を中心に、前回の  
20 事業者から 2 事業者ふやして 22 事業者が共同提案に参画していただ  
いた。先行地域内の雑炭素化により、市内の民生部門の電力量の約 84% の  
脱炭素化を見込んでいる内容である。都市型の省エネ構築と大規模電力需  
要施設を中心とした大幅な省エネを推進するという内容で今回提案させて  
いただいたところである。

(1) 先行地域のエリアである。こちらは前回のエリアと変わりはない。

(2) 第3回先行地域の内容における講評、課題の改善というところである。第3回の先行地域に関して不採択になったときに不採択の理由として環境省から出てきた内容にどのように対応したかである。一番大きなところに関しては、対象エリア内の電力需要99%を他地域からの再エネメニューに依存していること、再エネの最大限の導入と他自治体との連携などを検討してほしいという内容であった。民間事業者の国際PPAや多摩市役所、公共施設、民間施設の太陽光のさらなる設置をやったことによって75%自家消費という形まで引き上げることができた。課題であった99%の域外からの電気の購入に関しては24%まで引き下げることができた計画になっているところである。また、地域間連携に関しても、今鋭意協議を進めている最中という形になっているところである。

2番目、木質バイオマスボイラーの設置の具体化と費用の向上というところである。設置場所の計画の具体化と設置費用の精査を行って費用対効果を下げるという形で修正をかけさせていただいた。

3番目、多摩ニュータウンの再生に向けた産業振興の魅力度の向上ということで、エネルギーコストの削減により各企業の資金循環の流れをつくり、新規ビジネスの創出や企業誘致による産業活性化の促進をするという形で計画をつくり直させていただいたところである。

最後4番目、東京ガスのバイオガスや合成メタンのほうの将来を見据えた先進的な取り組みが期待されるというところに関しては現状社会実装ができていないので、今後社会実装ができてきた暁にはそちらもグリーンガス証書等の導入を検討していきたいという内容で今回第4回の申請を作成させていただいたところである。

最後、スケジュールである。8月28日に提出させていただいて、今回の発表は11月上旬という形になる。これまでの間に関しては、ヒアリング等はあるが内容としては受かるかどうかかわからないという状況が続いていく。今わかっている状況としては、第4回に関しては62の自治体、54案件の提出があり、そのうちの1件を多摩市が出したところである。

渡辺委員長

市側の説明は終わった。質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。  
この際協議会を暫時休憩する。

午後 3時02分 休憩

---

午後 3時02分 再開

渡辺委員長 休憩前に引き続き協議会を再開する。

続いて協議会10、パークマネジメント計画・公園施設長寿命化計画の骨子案について（報告）、市側の説明を求める。

長谷川公園緑地課長 資料は協議会10のデータをお開きいただければと思う。現在策定に取り組んでいるパークマネジメント計画、及び公園施設長寿命化計画の改定の骨子案についてご報告をさせていただく。

初めに、パークマネジメント計画策定に至る経緯を説明させていただければと思う。ページは2ページ目に進んでいただいて、公園を取り巻く時代の背景と効果である。まず左側の時代の背景であるが、平成5年6月に都市公園法施行令及び施行規則が改正され、公園の活用想定を児童が遊ぶ場から多くの世代が利用する場へ考え方が変更された。これにより、いわゆる児童公園というものが廃止された。平成15年12月の都市公園法施行令の改正では、量としての整備を進めるために設けられていた公園の誘致距離が廃止され、地域に存在する緑地の状況等を踏まえ、これを補完し有機的なネットワークが形成されるような視点での整備が重視されることとなった。

また、公園の整備等が一定程度進捗してきた一方、これまでの運営では時代のニーズに合わなくなり、自治体の財源も先細る中、新たな都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会を国が設置し、平成28年5月には一定の報告書が出された。そこでは、今後新たに重視すべき観点として、ステップストック効果をより高める、民との連携を加速する、都市公園を一層柔軟に使いこなすという3つの視点が出された。その流れの中で、平成29年6月には都市公園法が改正され、Park-PFI制度の創設などが行われた。さらに、令和2年9月には都市再生特別措置法等が改正され、まちづくりの視点からの公園整備等の促進も可能となった。これらの背

景を受けて、現在公園に求められる効果として、資料右側に挙げたような様々な要素が出てきている。

次のページに進んでいただいて、一方で、多摩市の公園緑地の現状である。市内には208の公園緑地があるが、その約8割が開園から30年以上が経過している。そのため、10年後にはそれが約9割となる。特に市内の公園の多くを占める街区公園は、児童が使用することを前提として考えられたものが多く、時代の背景や求められる効果に対応できない状況になってきており、また公園全体の老朽化も進んでいる。そのため、今後は公園に求められている効果を得られるように、改修時に新たな効果を発揮できるように整備を行い、必要に応じて制度等も見直していかなければならない。

次のページに進んでいただいて、こちらは多摩市の樹林地の現状である。公園緑地の多くの面積を樹木や樹林が占めており、施設と同様に30年以上経過し適正管理が今以上に必要であるものの、量が多く全てに対応し切れていない。その結果、樹木の大径木化、老木化が進行し、病虫害の被害の拡大や見通しの悪化、隣接地への越境等が増加している状況である。そのため、今後は景観形成や安全性の確保、大気浄化、生物多様性の確保等の機能を発揮するため適正な樹木配置や管理を行い、量から質への転換を図る必要がある。

次のページに進んでいただき、以上のことから新たにパークマネジメント計画を策定し、今後の公園のあり方や効果的な管理運営手法、施設や樹木の適正な維持管理方針等を定め、公園が地域の魅力となるとともに、周辺地域の価値を高めていくことを目指していく。

次のページに進んでいただいて、各計画の位置づけとなっている。緑全体の総合的な計画としてみどりと環境基本計画があり、その下部にパークマネジメント計画を置き、この計画の考え方や方針を踏まえて更新改修を進めるものとして、後ほど説明する長寿命化計画を位置づけていく。

次のページに進んでいただいて、ここから具体的な計画内容の項目を記載している。初めに、公園の適正配置である。こちらは課題として公園の誘致距離や1人当たりの公園面積などから考えると、現状は公園が充実している状況であり、公園利用者が少ない公園の価値をどう高めていくかの課

題がある。右下の図は、市内の各公園から誘致距離範囲を色づけしたもので、ご覧のとおり市内ほぼ全域が色づけされているおり、市内全域が公園の誘致距離内に入っていると言える。

次のページに進んでいただいて、こうした課題状況等を踏まえ、方針として、1つ目の既存公園においては、借地公園や緑地の継続について検討し、公園が少ない地域をつくらないよう今後の方向性を考えていく。2つ目の提供公園や寄附の申し出などについて、公園が色充足していることから、新規案件に対して取得するか、活用方法や財源等を含めて方向性を検討する。3つ目の公園の再編については、利用者の少ない公園などの再編や活用方法について方向性を検討する。

次のページに進んでいただいて、公園施設の機能再編・機能集約についてである。課題としては、老朽化している遊具等が多くあることや、近くに同じような施設が点在している状況がある。例の一つとして、トイレの配置について、右下の図は市内の各公園にあるトイレから半径500メートルの円を青塗りしたもので、その中でトイレが密集した地域が多いことがわかる。

次のページに進んでいただいて、方針として、1つ目が、効率的な施設の維持管理の手法について整理をする。これは後ほど長寿命化計画のページで説明させていただく。2つ目に、トイレについては、量から質への考え方を重要視して集約化を行うことでトイレの洋式化などの機能向上を図っていく方針とする。図のとおり、一定の距離範囲の中に適切な数となるよう集約を検討する。3つ目に、公園施設等の機能再編・集約である。各公園の役割の検討を行い、役割に合わせた施設機能の再編を検討し、地域のニーズに合わせた利用価値の高い公園づくりにつなげていく。

次のページに進んでいただいて、樹木の管理・更新についてである。課題として、市内の公園緑地の樹木の大木化・老木化が進んでおり、倒木のリスクや越境あるいはナラ枯れの被害の拡散防止などがある。そのため方針として、樹木の大きさや場所に合わせた剪定方法や樹木の配置等を定め、効率的な管理を行うとともに、植え替えや萌芽更新の方法も定め、緑の若返りも図っていく計画を策定する。絵にあるとおり、例えば住宅地に隣接している



場合は、越境等の影響を考慮し低木を中心に配置するなどといったことを行っていく。

次のページに進んでいただいて、公園管理運営手法・民活についてである。課題としては、管理については現在市内をブロックに分けて業務委託により行っているが、ブロック間の連携が少なかったり、要望から着手まで時間がかかったり、要望箇所ばかりの管理で最後までなかなか管理が行き届かないといったところが挙げられる。方針としては、管理事業者の裁量を広げ、事業者のノウハウをより生かしていくことを目指し、民間活力の活用を図っていく。導入に当たっては、市の特徴に合わせた活用方法を検討していく。

次のページに進んでいただいて、市民協働についてである。課題として、ボランティアの高齢化や会員数の減少など公園管理に関わる市民が減少傾向にあり、今後の活動が難しくなっている状況がある。そのため方針として、現状のボランティアの役割の見直しや、支援体制の見直し、団体間のコミュニティの場の形成などの方法を検討していく。また、新たに関わる仕組みなども考えていく。右下の図のように、例えば団体が一部運営を担うことで公園の活用の幅が広がり、公園へ関わることの価値の向上なども期待できると考えている。

次のページに進んでいただいて、公園利活用の方針についてである。課題としては、利用者の公園に対するニーズが社会情勢等により多様化している一方、制度が対応できていないといった状況がある。そのため方針として、ニーズに合わせた制度の見直しを行っていく。下の図のとおり、現在N Gとなっている行為についても、市民の運営への参加度や、あるいは地域への影響なども考慮し、緩和を行っていくなどの検討をしていく。

次のページに進んでいただいて、こちらは公園施設長寿命化計画の改定の概要となっている。公園施設長寿命化計画は、平成30年に策定して各計画期間10年のうち半分経過したので、ここで計画改定を行うものである。色分けされているとおり2つの要素があり、1つ目が、緑色の部分の施設の長寿命化計画である。こちらは、健全度調査の結果に基づく公園施設の老朽化対策として部分改修による機能維持を図るものである。右の図のとおり、

現行は応急対策で対応している比重が大きくなっているが、こちらを計画的に進めることで応急対応を必要最低限なものにしていき、これによりライフサイクルコストの縮減や平準化を図っていく。また、もう一つの要素が黄色部分の公園再整備の計画であり、全体改修による機能向上を図る。青で囲まれた、記載にあるような、現行計画にはなかった新たな要素を反映しながら両輪で進めていく。

なお、図の欄外下側の1つ目の文章の記載にあるとおり、現行計画で漏れていた橋梁についても今後の計画にきちんと位置づけて取り組んでいく。

最後のページに進んでいただいて、今後のスケジュールである。本日、骨子案として報告させていただいたが、これをもとに今後市民ワークショップを行う。その後素案原案を作成し、年度末の策定というスケジュールで進めていく。

岸田委員      今年度は本当に夏が暑くて、子どもたちの公園の利用や夏休みを見ている、子どもたちだけではなくかなり影響があったかと思うと、これから屋外にある公共施設などで、特に公園が気候危機の影響を受けやすいかと思うが、そういう視点も何かしらこういった計画に入ってくるのか。

長谷川公園緑地課長      こちらの計画では大まかな方針を定めさせていただくようなイメージで、実際、機能再編といったところは十分に地域の皆様、あるいは利用されるお子さんの世代を含め意見交換を重ねて、最終的に機能再編といったところもそうであるし、この公園を使うに当たって、今おっしゃられたように、支障があるようなところなんかも含めて解消をしていこうかと思っている。今、触れられたような主に日差しを受けてしまって、なかなかいられないというところが言われた趣旨の大きなところでもあるのかと思うので、そうしたところはそういう設備等を配置していくことで進めていく。

岸田委員      多分遊具等だと、全ての年代が使うわけではなく、限られた年代が使うということだと、夏はすごく多分熱くなっているだろうなということは皆さん体感としてわかっておられると思うが、結構危険な熱さになっていたりということもあるので、そういう部分にも目を向けてやっていただきたいと思う。

渡辺委員長      ほかに質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

続いて協議会 11、多摩市事業系有料指定袋の共通化について、市側の説明を求める。

星野資源循環推進課長 案件番号 11 番、多摩市事業系有料指定袋の共通化についてご説明をさせていただく。資料をご覧ください。

まず 1 点目の趣旨である。小規模排出事業所では現在燃やせるごみ、燃やせないごみを、それぞれオレンジ色、青色の指定袋で排出をいただいているところである。これらを共通化していきたいというものである。

2 の変更理由であるが、事業系の燃やせないごみ袋の出荷数が極めて少ないことから、1 枚当たりの製造コストが燃やせるごみの製造コストに比較して著しく高くなってしまっている。また、事業所や販売委託店が閉店する際に事業系の燃やせるごみ分の在庫が多く残ってしまうことがあり、そうすると劣化が進んでしまっ廃棄をしなければいけなくなってしまうというような状況がある。

3 点目であるが、そこで事業系のごみ袋を燃やせるごみと燃やせないごみで共通化することで製造コストの削減、劣化による処分をなるべく少なくするというようなことを考えているものである。

今後の進め方としては、今年度中に準備を進め、令和 6 年 4 月以降順次配送を予定している。また、旧仕様のごみ袋についても 2 年間は使用できるような形で対応していく。

なお、新しい袋で排出いただく場合には、袋に燃やせるごみ、燃やせないごみの表記があるのでこちらにチェックをしていただくということで、イメージ的に、これは事業系ではなくボランティア袋を共通化しているが、こういう形で燃やせるごみなのか、燃やせないごみなのかチェックができるようになっている。同じような形でここにマジック等でチェックか丸印をしていただき、それで排出していただくことを今考えているところである。

渡辺委員長 市側の説明は終わった。質疑はあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

渡辺委員長 質疑なしと認める。本件についてはこれで終わる。

次に、協議会１２番、所管事務調査についての件に入る。

前回６月２３日の生活環境常任委員会協議会において、生活環境常任委員会の２年間のテーマを地域公共交通についてとすることとした。その中で所管事務調査に位置づけるかどうかについては今後の調査の進展を見て９月の委員会で改めて協議することとした。

調査については、テーマに関連した先進市として１０月１８日に長野県茅野市においてＡＩ乗合オンデマンド交通「のらざあ」の取り組みについて視察を行うこととした。議会基本条例に定める議会の活動原則では政策提案機能を積極的に活用するとされており、５月２３日の議会運営委員会においても、前期議会運営委員会からの申し送り事項で、所管事務調査に位置づけ市に対し何らかの形で提案していくことが望ましいことを確認した。

ただし、テーマの中には様々な要素があるため、視察により先進事例等の知見を深め、課題などを整理し、また多摩市の現状を理解した上で、具体的な提案に向けた活動が可能であれば改めて令和５年度第４回定例会で所管事務調査に位置づけるかを協議したいと思う。以上のとおりでよろしいか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

渡辺委員長

それでは、そのようにさせていただきます。

以上で協議会を終了する。

（協議会終了）

---

午後 ３時１９分 再開

渡辺委員長

休憩前に引き続き会議を開く。

委員会を再開する。

以上で本日の日程はすべて終了した。

これをもって生活環境常任委員会を閉会する。

午後 ３時１９分 閉会

多摩市議会委員会条例第28条第1項の  
規定によりここに署名する。

生活環境常任委員長            渡辺    しんじ